

2008 年度 昭和会誌 診療部門



財団法人 昭和会 IMAKIIRE GENERAL HOSPITAL SHOWAKAI CLINIC

今給黎総合病院 昭和会クリニック

もくじ

- 3. 内科（総合内科）
- 5. 血液内科
- 7. 糖尿病内科
- 9. 消化器内科
- 12. 循環器内科
- 14. 呼吸器内科
- 19. 神経内科
- 24. 外科（消化器・乳腺・甲状腺・小児・肛門）
- 26. 呼吸器外科
- 29. 整形外科・リハビリテーション科
- 35. 形成外科
- 39. 脳神経外科
- 43. 産婦人科
- 46. 新生児内科
- 50. 小児科
- 54. 泌尿器科
- 55. 眼科
- 56. 気管食道・耳鼻いんこう科
- 58. 皮膚科
- 60. 麻酔科
- 62. 放射線診断科・放射線治療科
- 65. 救急科（連携診療科）
- 66. 病理診断科
- 69. 在宅診療科
- 71. 歯科、歯科口腔外科

内科（総合内科）

総合内科部長 生野 博久

当院総合内科は以前斉藤先生が部長として勤務されていましたが、しばらく担当がおらず、平成16年より生野博久と二木真琴先生が担当し再開しました。

総合内科の業務は、外来では感染症、健康診断、ワクチン接種、午後の外来のバックアップ、入院では感染症、不明熱の診断治療などです。

昨年の4月より特定健診が開始されました。これは最近話題の代謝症候群を診断し治療、指導するのを目的としています。脳出血、脳梗塞、心筋梗塞の原因となる動脈硬化には以前より高血圧、高脂血症、肥満、糖尿病などの危険因子があると言われていました。代謝症候群とは特に腹部に内臓脂肪の蓄積がある場合は軽い危険因子の組み合わせにより動脈硬化に非常に悪さをするという概念です。自覚症状のある前に早期に動脈硬化の危険因子を発見し治療するためには、健康診断は重要であると思われます。昨年は健康教室で「動脈硬化」「代謝症候群」について一般の方へ講演を行いました。

当科は高齢者の患者様が特に多く、病気の治療は当然ですが、治癒した後の退院先でのfollow upが大変重要と思われます。専門性が利用できる場所は生かし、ケースワーカー、在宅医療部との連携を保ち、より良いquality of lifeを目指した治療を考えていきたいと思えます。

平成17年より開始したのはNST(nutrition support team)の活動です。これは患者様の栄養状態を把握して、栄養補給を補助する多種職種を含めた委員会活動です。主治医が希望する低栄養状態の患者様を栄養士、PT、ST、薬剤師、看護師と共に回診を行い、主治医への助言、補助を行っています。昨年の5月からは入院時血清アルブミン値が低い患者様のスクリーニングも開始しました。本年は食事オーダーの電子カルテ化に伴って入院患者様の栄養評価（SGA）を開始しました。次は入院カルテが電子カルテに以降した時にいかにNSTが入院患者様に役に立てるかを検討する予定です。

当科としては「できることからコツコツと」をモットーに地道に診療、委員会活動を続けようと思えます。

【平成 20 年度 予防接種件数】

	インフル エンザ	麻 し ん	お た ふ く	エ イ ム ゲ ン	ビ ー ム ゲ ン	風 し ん	日 本 脳 炎	狂 犬 病	破 傷 風	水 痘	麻 し ん 風 し ん	ニ ュー モ バ ツ ク ス	合 計
4月	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
5月	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	10	0	13
6月	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4
7月	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
8月	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	14	0	17
9月	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	7	0	10
10月	49	0	1	0	0	0	0	0	0	0	7	0	57
11月	330	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3	0	335
12月	183	0	1	1	0	0	0	0	1	0	4	1	191
1月	18	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	22
2月	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	11
3月	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	18	0	23
総合計	586	3	7	2	0	7	1	1	2	0	78	1	688

【講演】

在宅医療部講演会 平成 20 年 8 月 6 日 今給黎総合病院 講義室
『動脈硬化と代謝症候群』講師 生野 博久

血液内科

血液内科部長 小濱 浩介

当院血液内科はH21年6月現在、常勤医師1名と大学病院血液内科在籍の非常勤医師3名による診療体制をとっており、大学病院との連携のもと運営されています。白血病、悪性リンパ腫、成人T細胞白血病、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの血液の悪性疾患から、各種貧血、出血傾向をきたす疾患（紫斑病等）の診療を行っています。平成20年度に入院治療となった患者さんを図に示します。当院は血液学会認定研修施設となっており、地域最大級の総合病院として放射線治療をはじめとしたスムーズな他科連携を伴う集学的治療が可能であることが最大の特徴です。

通常外来は月曜から金曜までの午前中11時までですが、土曜日やそれ以外の時間については、随時外来までご相談ください。

【スタッフ紹介】

〈常勤医師〉

小濱浩介（おばまこうすけ） 血液内科部長、医学博士

略歴 平成元年熊本大学医学部卒業、鹿児島大学病院、九州がんセンター、東京大学医科学研究所付属病院、鹿児島市立病院、今村病院分院などで血液内科医として勤務。

資格 血液学会専門医、同指導医、内科学会認定医、がん治療認定医、臨床腫瘍学会暫定指導医。その他日本輸血学会、緩和ケア学会などに所属。

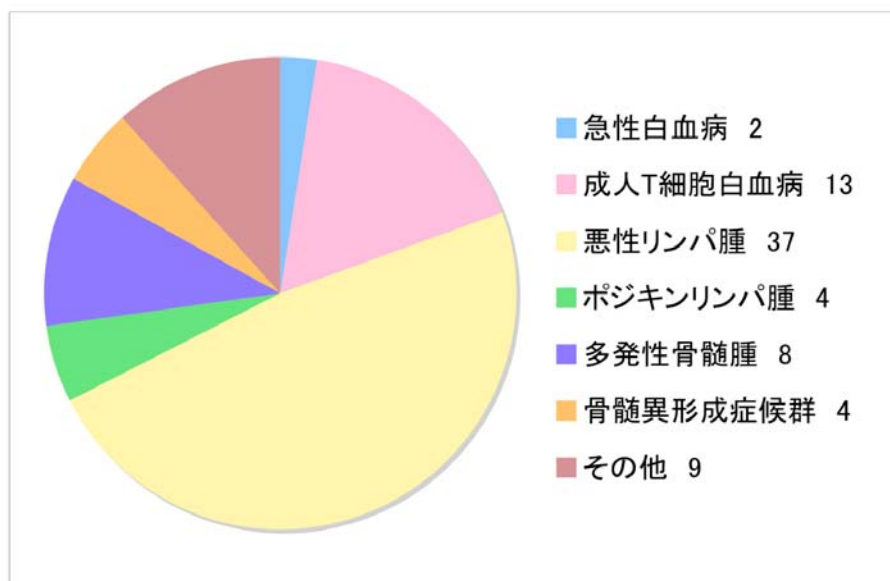
〈非常勤医師〉

魚住公治 鹿児島大学血液膠原病内科准教授

鈴木紳介 鹿児島大学血液膠原病内科助教

林田真衣子 鹿児島大学血液膠原病内科

【平成20年度 新規入院患者77例の疾患別内訳】



【学会活動】

放射線照射と2種類の topoisomerase 阻害剤の併用が奏功した成人T細胞白血病

鹿児島血液研究会 鹿児島 平成20年7月

今給黎総合病院血液内科 有馬丈洋、小浜浩介、鈴木紳介

顆粒リンパ球増多症 (T-cell large granular lymphocyte leukemia, Chronic NK cell lymphocytosis, Aggressive NK cell leukemia) におけるNK細胞受容体 (KIR) 遺伝子解析

第70回日本血液学会総会 京都 平成20年10月

今給黎総合病院血液内科 小浜浩介 他

輸血前投薬と交差血の有効期限について-----特に血液内科領域の現場から-----

鹿児島輸血医療懇話会 鹿児島 平成21年2月

今給黎総合病院血液内科 小浜浩介

糖尿病内科

糖尿病内科部長 盛満 慎吾

【診療内容、特色】

鹿児島県内最大の民間の総合病院であることの人的および設備的なメリットを生かして、あらゆる病期の糖尿病患者さんについて、血糖コントロールおよび慢性透析を除く全ての合併症管理が出来ます。ただ、スタッフが常勤医1名、非常勤医1名と少ないために、管理出来る患者数に限りがあり、病状の落ち着いた患者さんにつきましては、掛かり付けの医療機関に紹介させて頂き、受け入れ可能患者数の確保に努めております。

【スタッフ紹介】

〈常勤医師〉

部長 盛満 慎吾

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会、アメリカ糖尿病協会

資格：日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医

〈非常勤医師〉

医員 奥 寛子

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会、日本神経学会

資格：日本内科学会認定医、日本神経内科専門医

【外来診察担当】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
AM	盛満 *1	盛満	盛満	盛満	盛満 *1	奥 *2
PM	休診	休診	休診	休診	休診	

*1 予約再診のみ

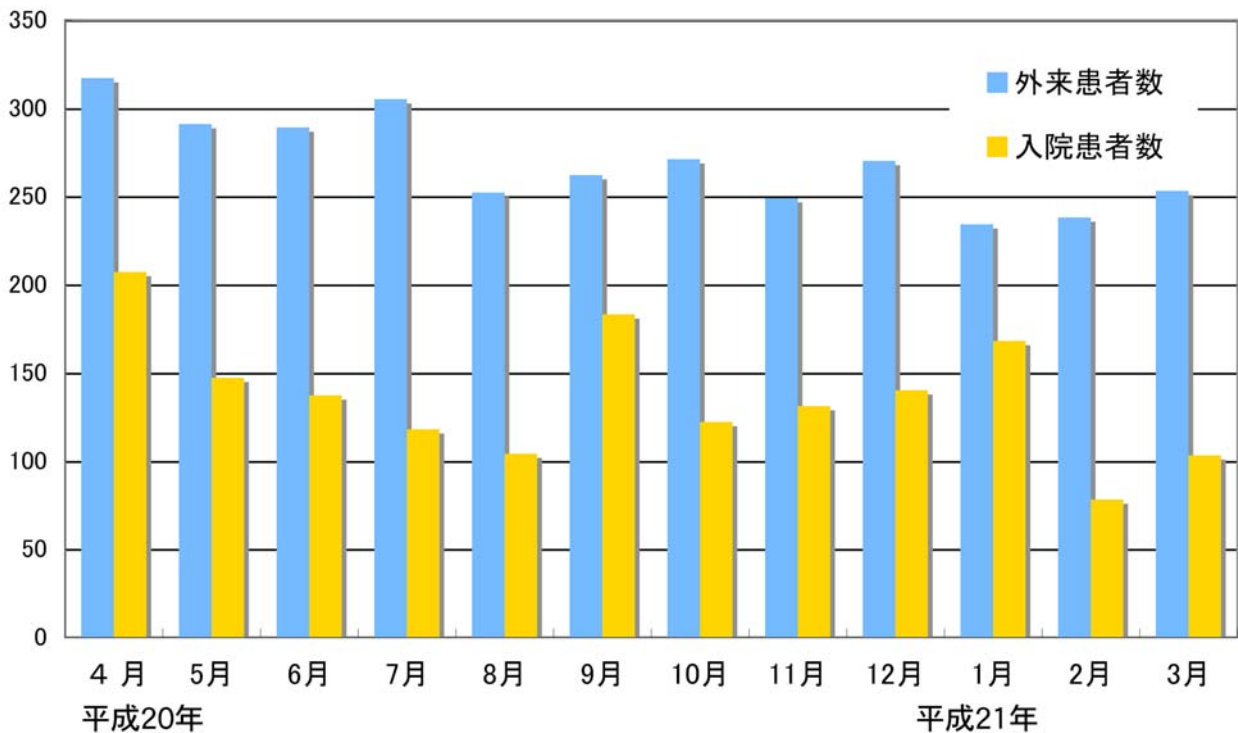
*2 隔週で予約再診のみ

【人事】

前田 芽美 (非常勤) 平成17年4月～平成20年4月末退職

佐藤 みき (非常勤) 平成17年4月～平成20年7月末退職

【診療実績】



【平成 21 年度の計画】

昨年、非常勤医がそれぞれの家庭の都合で相次いで二人も退職となったために、現在の診療体制は、平成 17 年度当時の常勤医 1 名、非常勤医 4 名から常勤医 1 名、隔週の非常勤医 1 名へとスタッフの減少に伴い脆弱化しております。それに対して、糖尿病患者さんは、糖尿病が疑われる患者さんまで含めると、この 10 年間で 800 万人以上増加しており、ますます、診療のニーズは高まっております。その結果、現在の当科の診療体制では質および量の面においてより一層の低下を来し、すでに患者さん方に十分な医療を提供出来なくなっております。そのために、それへの対応として、以前より推し進めております開業医の先生方との病診連携をより一層進めることによる外来診療の効率化と、また、担当医の確保という人的資源の充実を図ってまいりたいと思います。今後とも開業医の先生方には、引き続き、色々ご協力をお願いすることもあるかとは思いますが、その際は、ご理解とご協力の程を頂きますように、この場をお借りしてお願いする次第です。その際は宜しく願い申し上げます。

また、昨年 4 月からの DPC（診断群分類包括評価）といわれる包括医療制度の当院への導入により、糖尿病性細小血管障害の評価については、入院下でも十分に行なえておりますが、以前は、入院下で行ってございました動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックが、保険制度上、入院下では十分に行ない難くなってきております。そのために、動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックが外来で行なえるようにシステムの構築をしてまいりたいと思います。

最後に、糖尿病患者さん方に対して、一病息災という理念の下に、QOL を維持しつつ健康な方々とかかわらない寿命を可能な限り保障出来るように、今後とも努力してまいりたいと思います。今後ともかわらぬご支援の程をお願い申し上げます。

消化器内科

消化器内科部長 古賀 哲也

【診療内容、特色】

月曜日から金曜日まで内視鏡および超音波を使った検査および治療が行われています。当科の特徴は、救急患者さんの対応が多いことと外科的処置を含め、内視鏡のほとんどすべての処置を満遍なく扱っていること、また、高齢で、心、肺、腎疾患など他の病気を抱えているリスクの高い患者さんが多いことが特徴です。治療内容は後述のごとく多岐にわたっております。

【スタッフ（医師経歴、資格）】

部長：古賀哲也 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 健康科学専門人間環境講座・消化器疾患・生活習慣病学講座在局 平成11年より常勤
日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会認定専門医
日本内科学会認定内科医
他、常勤医 2名、非常勤医 5名

【診療状況】

外来患者 8608名 初診 2130名 再診 6478名
入院患者 465名/年

【検査件数】

検査名	件数
上部消化管内視鏡検査	1539件 (経鼻内視鏡：333件)
下部消化管内視鏡検査	1063件
腹部超音波検査	1340件
上部超音波内視鏡検査(EUS)	49件
下部超音波内視鏡検査(CUS)	7件
超音波内視鏡下生検(FNA)	3件
内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)	114件
IDUS	4件
小腸内視鏡検査	1件
PTCS	1件
胃透視(MDL)	41件
注腸(BE)	47件

【処置件数】

処置名	件数
上部消化管内視鏡的止血術	66 件
下部消化管内視鏡的止血術	17 件
経肛門的イレウスチューブ留置術	4 件
イレウスチューブ留置術(上部)	9 件
内視鏡的異物除去術	18 件
内視鏡的食道拡張術	10 件
EIS・EVL	7 件
内視鏡的食道粘膜切除術	4 件
内視鏡的胃粘膜剥離術	13 件
内視鏡的大腸ポリープ切除術	210 件
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	1 件
食道ステント留置術	4 件
小腸ステント留置術	1 件
大腸ステント留置術	4 件
内視鏡的胆道ドレナージ術(ENBD・ERBD)	53 件
内視鏡的乳頭切開および拡張術(EST・EPBD)	33 件
内視鏡的胆道メタリックステント留置術	8 件
内視鏡的胃瘻増設術(PEG)	32 件
PEG-J	5 件
経皮経肝胆道ドレナージ術(PTCD)	29 件
経皮経肝胆嚢ドレナージ術(PTGBD)	2 件
経皮経肝胆嚢穿刺吸引術(PTGBA)	5 件

【医療偶発症と治療成績】

検査および処置を施行した全例で重篤な医療偶発症は認めず、安全が確保された医療現場を実現していると同時に十分な治療成績が得られています。

【講演・学会活動など】

【論文】

10年の経過中に形態の変化を見せた乳頭部腺腫の1例
胆と膵 vol. 30(5)525-528, 2009
渡邊照彦、牟礼洋、古賀哲也、白濱 浩

【症例報告】

当院におけるPEGの現状
第9回鹿児島PEG研究会 鹿児島 平成20年10月25日
古賀哲也

胆管炎との鑑別に苦慮した高齢発症成人 Still 病の 1 例
第 45 回日本胆道学会 千葉市 平成 21 年 9 月 19 日
古賀哲也

経鼻内視鏡併用 X 線透視下 Direct PEG の有用性について
第 14 回 HEQ 研究会 神戸市 平成 21 年 9 月 26 日
古賀哲也

【座長】

第 13 回鹿児島消化器癌研究会 城山観光ホテル 平成 21 年 4 月 24 日 古賀哲也

【講演】

安全な内視鏡医療実現に向けての理論と実践
～今給黎総合病院消化器内科のこれまでの歩みを総括して～
第 9 回鹿児島県消化器内視鏡技師会研修会 平成 21 年 7 月 11 日
古賀哲也

【講義、教育活動】

久木田学園看護専門学校講座派遣医師
古賀哲也：消化器の構造と機能、病態生理、疾患の理解 講座時間 10 時間

【平成 21 年の計画】

今後 3 カ年計画で内視鏡の大幅な拡充と本年度内に内視鏡ファイリングシステムの導入を予定しています。

循環器内科

循環器内科部長 大場 一郎

【特色】

当科は鹿児島大学大学院医師学総合研究所循環器・呼吸器・代謝内科学教室（鄭忠和教授）から循環器内科スタッフとして派遣された三名の常勤医で構成されています。循環器疾患の外来・入院診療、他科から依頼の術前および心疾患精査、救急患者の対応を経胸壁・経食道心エコー、頸動脈エコー、下肢血管エコーなど超音波検査、運動・薬物負荷検査、冠動脈造影 MDCT を駆使し生理検査室、放射線科と連携のもと多様に診療をこなしています。

【人事・スタッフ】

平成 20 年度の循環器内科の診療実績について御紹介申し上げます。本年度の人事異動は H21 年 1 月 31 日海江田智江医師の退職後、H21 年 2 月 1 日から楠本敦旨医師が派遣されました。その他に院内ローテーションや研修医を加えて日々の診療を行っています。生理検査技師の富吉裕児、森田修康と外来受付・看護部体制で検査・治療に対応しています。

【診療状況】

1) 外来診療

外来診察は部長が金曜以外の毎日午前中と水曜の午後、他のスタッフが隔日で午前中の診察にあたります。外来患者数は一日あたり 30-50 名程度で、待ち時間の解消のための予約制をとっていますが、予約外の飛び込み受診、新患や急患、他院や他科からの紹介患者様を組み込まざるをえず、限られたマンパワーの中ではなかなか予約通りにはいかないのが実情です。高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病、狭心症・心筋梗塞など虚血性心疾患、陳旧性心筋梗塞後や拡張型心筋症など心筋疾患による慢性心不全、心房細動などの不整脈および弁膜疾患、下肢閉塞性動脈硬化症 (ASO) や深部静脈血栓症 (DVT) など下肢血管疾患や大動脈解離などの救急対応と循環器疾患全般の診療を行っています。当科の特徴としては術前心機能評価目的での他科依頼の多さです。冠動脈造影 MDCT 診断が放射線部のレベルアップによる解析の迅速化で従来より大量かつ詳細な画像診断が可能になりました。当院では心臓カテーテル検査およびカテーテル治療は行いませんので、鹿児島大学病院・鹿児島医療センター・鹿児島市立病院・天陽会中央病院といった心臓カテーテル関連施設との緊密な連携によりスピーディな診断・加療を実現しています。また、上記の鹿児島市における循環器基幹病院と合同でカンファレンスや研究発表を行う機会も多く、先進医療の動向にも充分対応出来ます。

2) 入院診療

最も多い症例は高齢者の慢性心不全の増悪により救急搬送されるケースです。ICU 管理で循環・呼吸状態を改善させ内科病棟へ転棟し全身状態の改善をみて退院となります。ペースメーカー植え込み術はほぼ毎月一件のペースで行っています。整形外科など長期臥床化する症例が多いことから下肢静脈血栓症例は増加がみられ、放射線科と一次留置型や留置型の下大静脈フィルターによる肺塞栓予防を積極的に行っています。

【手術症例数（平成 20 年度）】

ペースメーカー移植術 1) 新規：5 件、2) 入れ替え：4 件

【超音波検査件数（平成 20 年度）】

- ・心エコー 1) 経胸壁：2942 件、2) 経食道：8 件
- ・頸動脈エコー 経胸壁心エコー時にルーティンに行っています。
- ・下肢血管エコー 1) 動脈：22 件、2) 静脈：194 件

【冠動脈MDCT（平成 20 年度）】

約 300 件

【平成 22 年度に向けて】

現在の診療内容をさらに充実させながら、大学病院や鹿児島医療センターといった最新機器や情報の豊富な施設との人的・物的交流をいっそう深めていきます。総合病院である当院の特色から循環器科に限らず幅広い疾患を経験する機会が多く、研修医の対応にも力を入れていく予定です。

呼吸器内科

呼吸器内科部長 岩川 純

平成 21 年 4 月から、当科は岩川以下久保田、窪田、上川路医師の 4 人体制となりました。呼吸器外科、放射線科、病理診断科とも協力し、より良い呼吸器疾患の診療にあたってまいります。また、他科とも連携して患者様に対して全人的に診療に当たるように努めてまいります。

当科は平成 20 年度から日本呼吸器病学会の関連施設となりました。より充実した診療を目指し努力してまいります。

【当科の主な診療内容】

肺炎、呼吸器感染症

日本呼吸器学会や感染症学会の市中肺炎ガイドライン、院内肺炎ガイドラインに準拠して診断、治療にあっています。結核については当院には結核病床がないため、外来での診療が主となります。肺炎球菌ワクチン接種も行っています。

肺癌

胸部レントゲン、CT などの画像診断、気管支鏡をおこない、肺がんの診断を行います。放射線科、外科、病理診断科と連携して患者様ごとの最も適切な治療について検討し、治療について提案いたします。

内科領域では抗がん剤による治療が中心となります。痛みをとる緩和治療も行っています。

外来での抗がん剤治療も積極的に行っています。担当医にご相談ください

気管支喘息

鹿児島県は 2003 年の統計で人口 10 万人あたりの喘息死全国平均 2.9 人に対して 6.6 人で全国最下位を記録しています。気管支喘息は、吸入ステロイドを中心とした治療でコントロール可能な患者さんが増えています。当科では喘息死ゼロを目指して鹿児島気管支喘息研究会の協力病院（拠点病院）として活動しています。

間質性肺炎

治療、診断が困難な疾患でしたが徐々に病態が解明されつつあります。治療についても進歩しています。

肺気腫、慢性呼吸不全

肺機能、画像所見からの確な診断を行い、状態にあった治療を選択するように努めています。呼吸リハビリテーションや薬物治療、禁煙指導を行います。状態によっては在宅酸素療法の導入や非侵襲的陽圧換気療法（鼻マスク式人工呼吸器）も使用しています。

当科では、学会、研究会に積極的に参加して最新の医療学び、院内、当科でのカンファレンスで患者様ごとの最良の医療を提供できるように努力しております。

【外来診療】

月曜日から金曜日は外来担当を決めて診療しております。土曜日については担当医師が週で変わりますのでご注意ください。

平成 17 年度からの外来患者延べ数と新患患者数を表 1 に示します。平成 18 年度以降外来患者数では 6000 人前後で新患患者数も 1300 人前後です。

表 1)

	延べ患者数	新患患者数	紹介患者数
平成 17 年	5434	1202	341
平成 18 年	6527	1347	410
平成 19 年	6678	1302	462
平成 20 年	6979	1152	493

平成 18 年度の外来新規の病名がつきその後外来で経過を観察した患者様の疾患では、気管支喘息が最多で 410 例、ついで肺炎が約 300 例でした。また肺がんは 68 例で、間質性肺炎が 30 例、肺気腫は 90 例でした（重複を含む）。

年々、紹介患者数が増多しつつあります。

【禁煙外来】

平成 21 年 4 月から当科でも保険が適応できる禁煙外来を始めました。水、金の午前中だけの外来となります。他院での治療困難な方に限定させていただいております。ご希望の方はかかりつけ医の先生にご相談のうえ、紹介をいただくようお願いしております。

【入院診療】

入院診療としては平成 18 年から 3 階西病棟を主病棟として診療に当たることとしました。各病棟に患者様が点在すると非効率のみでなく、看護師との連携も困難でよりきめ細やかな診療ができないと考えました。また、看護師をはじめスタッフの教育の点でも不利と判断したためです。軽症患者であれば他病棟に入院することはありますが呼吸不全を有する患者様などは 3 階西病棟に入院していただくようにしています。さらに人工呼吸器が必要となる急性疾患などは状態によっては ICU で治療するようにしています。入院患者数の内訳を表 2 に示します。

表 2)

	17 年度	18 年度	19 年度	平成 20 年
肺癌	267	243	358	338
肺炎	110	110	121	133
間質性肺炎	22	21	18	31
喘息	13	28	24	26
肺気腫	7	5	11	14
肺結核	13	4	5	16
その他	161	154	144	198
合計	593	565	681	756

疾患ごとでは肺がんのために入院した延べ患者数が 338 例と最多となっています。平成 18 年 8

月から平成 19 年 7 月までの 1 年間、当科で新規に肺がんと診断された患者数は 116 例うち呼吸器外科で手術可能な患者様は 1/3 程度でした。手術ができないⅢ b 期以上の患者が多いのが実情です。治療としては進行肺がんで高齢、全身状態が不良のため抗がん剤による化学療法ができなかった数例を除き、化学療法を施行しています。化学療法は複数回の治療となるため 1 人の患者様が 2 - 6 回入院するため延べ患者数では最多となっています。肺がんについては患者様には病名を告知し、標準的に肺がんで使われている化学療法を選択し、効果も説明して納得して治療を受けていただくようにしております。また入院だけでなく外来での化学療法を積極的に行い、患者様の負担を軽減するように努めています。

他の疾患としては肺炎、気管支喘息、肺気腫についても学会などの推奨するガイドラインに基づき経験だけに頼らない、根拠のある治療を目指しています。

平成 20 年度の気管支鏡検査の数としては 174 例で大きな合併症はありませんでした。気管支鏡を行い肺がんの診断がついた 116 例中 84 例 72%が気管支鏡で組織または細胞診で診断が確定しています。重篤な合併症はありませんでした。今後も適応を考慮し、安全に的確な検査を施行していきます。

最後に、当科が円滑に診療を行えるのも 3 階西病棟の栞師長をはじめ病棟スタッフ、外来スタッフや多くのコメディカルの方々のお陰です。また、大きな合併症もなく気管支鏡を施行できているのも、気管支鏡室専従の中川さん、内視鏡室の西山さんのご協力の結果です。紙面ではありますがお世話になっている方々に厚く御礼申し上げます。

【スタッフ紹介】

岩川 純

1995 年 鹿児島大学卒業 鹿児島大学医学第 3 内科入局 研修医
1996 年 沖縄中部病院呼吸器内科レジデント
1997 年 県立北薩病院 呼吸内科医師
1999 年 長崎大学 第二内科 感染症グループに国内留学
2001 年 ネブラスカ州立大学 留学
2003 年 出水市立病院呼吸器内科医長
2005 年 鹿児島大学病院 呼吸器内科医員
2006 年 今給黎総合病院呼吸器内科 部長 現職

〈所属学会〉

日本内科学会、日本呼吸器学会、日本感染症学会、日本化学療法学会、日本臨床腫瘍学会

〈取得資格〉

日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、ICD 認定産業医

久保田 真悟

1998 年 鹿児島大学医学部卒業 第 3 内科入局
2001 年 今村分院
2003 年 阿久根市民病院
2005 年 鹿児島大学病院 呼吸器内科
2006 年 今給黎総合病院呼吸器内科

〈所属学会〉

日本呼吸器学会

〈取得資格〉

日本内科学会認定医

窪田 幸司

2002年 鹿児島大学医学部卒業 鹿児島大学病院第3内科入局

2004年 肝属郡医師会立病院呼吸器内科

2005年 南九州病院呼吸器内科

2007年 鹿児島大学病院呼吸器ストレスケアセンター

2009年 今給黎総合病院呼吸器内科

〈所属学会〉

日本内科学会、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本呼吸器内視鏡学会

〈取得資格〉

日本内科学会認定内科医

上川路 和人

2005年 大分大学医学部卒業

2005年 鹿児島大学病院初期研修医

2007年 鹿児島大学病院後期研修医(呼吸器・ストレスケアセンター)

2008年 南九州病院呼吸器内科非常勤

2008年 今給黎総合病院・昭和会クリニック呼吸器内科

〈所属学会〉

日本内科学会、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本呼吸器内視鏡学会

〈取得資格〉

日本内科学会認定内科医

【講演・学会活動など】

【論文】

父娘感染が示唆された RFP、SM 耐性肺結核の一例

第46巻6(18) 鹿児島市医報

岩川 純, 隈元朋宏, 本川郁代, 久保田真吾

【講演会】

PK/PD を考慮した市中肺炎の治療

谷山生協病院 2007年9月26日

岩川 純

病態に基づいた最適な喘息治療とは？

鹿児島気管支喘息研究会 ミニレクチャー 2009年4月14日

岩川 純

ガイドラインを踏まえた市中肺炎の診療の実際

クラビット発売記念特別講演 2009年8月7日

岩川 純

【学会発表】

芳香剤誤嚥による呼吸不全を起こし救命し得なかった1例

第59回日本呼吸器学会九州地方会 別府市 2007年11月23日

○隈元 朋洋 本川 郁代 久保田 真吾 岩川 純

鹿児島大学病院呼吸器ストレスケアセンター

松山 航 東元 一晃 有村 公良

リネゾリドが有効であったMRSAによる中心静脈カテーテル関連敗血症の1例

第279回日本内科学会九州地方会 長崎市 2007年11月18日

今給黎総合病院呼吸器科 ○隈元 朋洋 本川 郁代 久保田 真吾 岩川 純

鹿児島大学病院呼吸器ストレスケアセンター 松山 航 東元 一晃 有村 公良

【研究会発表】

吸気流入速測定による吸入ステロイド薬剤形の検討

第6回鹿児島喘息研究会

久保田 真吾 岩川 純

鹿児島大学病院 呼吸器内科 東元一晃

ゲフィチニブが著効した喫煙者肺線がんの1例

鹿児島肺がん研究会

岩川 純, 隈元朋宏, 本川郁代, 久保田真吾

神経内科

神経内科部長 丸山 芳一

【スタッフ（平成20年度在籍）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
丸山芳一												
長堂竜維												
徳永章子												
荒田 仁												
下倉眞平 (研修医)												

〈常勤医師〉

- 丸山芳一医師（神経内科部長、医学博士、日本内科学会認定医、神経内科専門医、日本神経学会評議員、鹿児島大学医学部臨床教授）
- 長堂竜維医師（神経内科部長、医学博士、日本内科学会認定医、神経内科専門医、鹿児島大学医学部非常勤講師）
- 徳永章子医師（神経内科専門医、日本内科学会専門医）
- 荒田 仁医師（神経内科専門医、日本内科学会専門医）

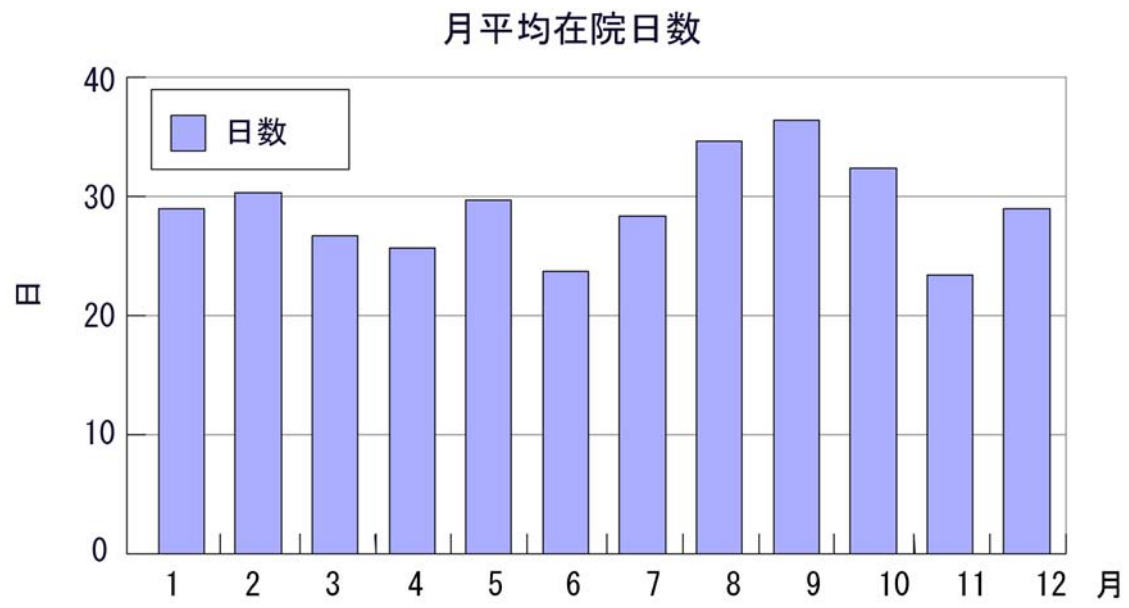
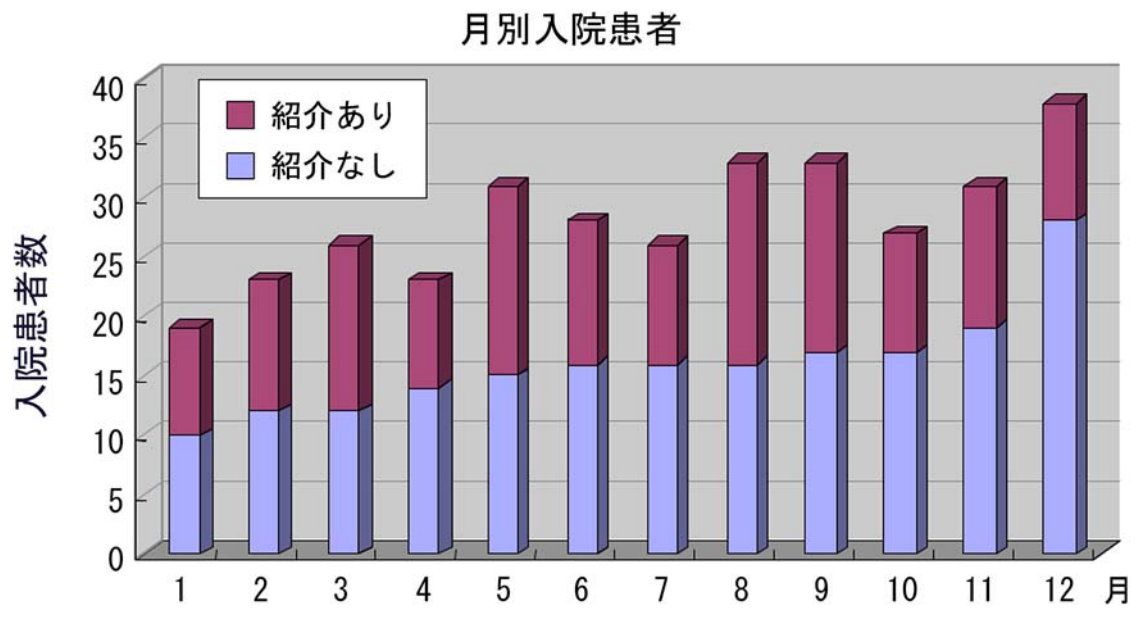
〈非常勤医師〉

- 有村由美子（電気生理学）
- 丸山征郎（血管代謝学）
- 橋口照人（神経内科学、糖尿病）
- 脇田政之（神経内科、頸部血管超音波検査）
- 池田賢一（神経内科）
- 徳永彰子（神経内科）
- 崎山佑介（神経内科学）
- 稲森由恵（神経内科学）
- 川村美輪子（神経内科学）

【外来患者（平成20年度）】

- 初診 1,225名
- 再診患者 10,038名

【入院状況】（月ごとの入院患者数と在院日数）



【疾患別入院患者】

変性疾患	パーキンソン病	14	免疫性疾患	全身性エリトマトーデス	1	
	シャイドレイジャー	1		ギランバレー症候群	5	
	アルツハイマー病	2		重症筋無力症	2	
	筋萎縮性側索硬化症	12		膠原病	1	
	認知症	1		多発関節炎	1	
	運動神経疾患	3		多発性硬化症	6	
	脊髄小脳変性症	5		亜急性散在性脳脊髄炎	1	
	舞踏病	1		脊椎疾患	腰椎ヘルニア	1
	多系統萎縮症	2			頸髄症	1
	レビー小体病	1			脊髄症	2
中毒・代謝疾患	アルコール中毒	2	末梢神経疾患	末梢性顔面神経麻痺	2	
	肝性脳症	1		動眼神経麻痺	1	
	低ナトリウム血症	1	感染症	気管支炎	1	
	糖尿病	4		偽膜性腸炎	1	
	水中毒	1		胸膜炎	1	
機能性疾患	失神	3		肺炎	15	
	眩暈	6		敗血症	1	
	うつ病	1		蜂窩織炎	1	
	過換気	1		ヘルペス感染	2	
	てんかん重責	12		膀胱炎	1	
	悪性症候群	1		尿路感染症	1	
	統合失調症	1		不明熱	2	
	けいれん重責	4		リンパ節炎	1	
	ヒステリー	1		胸水	1	
	躁鬱病	1		その他	上腸管膜動脈閉塞死亡	1
神経感染症	エイズ	1	心室細動		1	
	髄膜炎	9	正常圧水頭症		3	
	脊髄炎	5	播種性血管内凝固症候群		1	
	脳炎	9	白血球減少		1	
脳血管障害	脳血栓	86	高血圧		1	
	脳塞栓	22	下血		1	
	脳出血	8	低髄圧症候群		2	
	一過性脳虚血発作	5	貧血		1	
筋疾患	筋炎	3	吐血		1	
	横紋筋融解	1	慢性疲労	1		
	リウマチ性多発筋痛症	5	頭部外傷	1		
	低カリウムミオパチー	9	肺気腫	1		
腫瘍性疾患	前立腺がん	1	孔脳症	1		
	脳腫瘍	4	脱水	7		
	悪性リンパ腫	1	球麻痺	1		

合計 328 名

【死亡症例】

平成 20 年度死亡症例

	性別	年齢	入院傷病名	死因
1	女	71	内頸動脈動脈閉塞	急性心筋梗塞
2	男	62	脳幹出血	脳幹出血
3	男	77	脳塞栓	脳塞栓
4	男	79	吐血	吐血
5	男	82	脳梗塞	敗血症
6	男	82	脳塞栓	脳塞栓
7	男	88	細菌性髄膜炎	細菌性髄膜炎
8	女	93	脳塞栓	脳塞栓
9	女	49	心室細動	心室細動
10	女	84	上腸管膜動脈閉塞	循環ショック
11	男	84	脱水	循環ショック
12	女	76	肺炎	肺炎
13	男	78	球麻痺	呼吸不全
14	男	75	脳塞栓	脳塞栓

【特殊検査】

脳血流シンチ 外来 10 例 入院 28 例
MIBG 心筋シンチ 外来 6 件 入院 7 件
脳波 多数
筋電図検査 多数

【講演、学会活動など】

【講演】

抗血栓薬を知り、使い分ける

鹿児島市医師会勤務医会研修会 鹿児島県医師会館 鹿児島 平成 21 年 3 月 23 日
丸山芳一

rTPA 療法後、速やかな抗凝固が必要ではないか

第 11 回 Brain attack フォーラム鹿児島 城山観光ホテル 平成 20 年 10 月 18 日
丸山芳一、荒田 仁、林 茂昭、長堂竜維

【研究・教育】

脳血管疾患の再発に対する高脂血症薬 HMGCoA 阻害薬の予防効果に関する研究

丸山芳一（研究協力）

主任研究者 広島大学大学院脳神経内科 松本昌泰

【症例報告】

重症筋無力症、悪性胸腺腫に合併した後天性ニューロミオトニア（Isaccs 症候群）の 1 例
第 282 回日本内科学会九州地方会 沖縄 平成 20 年 8 月 18 日
神経内科 下倉眞平、長堂竜維、林 茂昭、徳永章子、丸山芳一
呼吸器外科 米田 敏

【講義】

丸山芳一 鹿児島大学医学部概説講義 血液凝固（血小板、出血性疾患） 平成 20 年 1 月 14 日

【座長】

丸山芳一 脳卒中を考える会 城山観光ホテル 平成 21 年 4 月 10 日

丸山芳一 第 11 回 Brain attack フォーラム鹿児島 城山観光ホテル 平成 20 年 10 月 18 日

【論文】

重症筋無力症、悪性胸腺腫に合併した後天性ニューロミオトニア（Isaccs 症候群）の 1 例
鹿児島市医報 47:11、18-21 2008
神経内科 下倉眞平、長堂竜維、林 茂昭、徳永章子、丸山芳一
呼吸器外科 米田 敏

外科(消化器・乳腺・甲状腺・小児・肛門)

外科部長 牟禮 洋

【人事】

〈医師〉

継続：今給黎和典、牟禮 洋、島田麻理緒、野間秀歳、
福島浩平 平成20年6月まで
瀧川譲二 平成20年7月から

〈診療補助部〉

中村容子 平成20年11月まで
桃原希 平成20年11月～平成21年2月
手塚あゆみ 平成20年1月から～

〈看護師〉

松田めぐみ
田久見麻美子 他

【外来患者状況】

平成20年度の外来患者総数(延べ)は4151名であった。

その内訳は

初診患者：667名 そのうち約1/3に当たる216名は時間外や休日、深夜の患者である。

再診患者：3484名

【入院患者】

736名/年

【手術症例】

手術総件数：335件

麻酔別件数：全身麻酔：231件、腰椎・硬膜外麻酔：74件、局所麻酔：29件

緊急手術：101件

鏡視下手術：66件

【主要疾患別手術件数】

疾患名	件数
急性虫垂炎	36件
鼠径・大腿ヘルニア	70件
胆管がん	4件(1例バイパス)
大腸がん・直腸癌	28件
胃癌	16件
胆石・胆嚢炎など	29件
乳癌	7件(1件は両側)
腹壁癒痕ヘルニア	9件
膵癌	2件
食道がん	2件

【学会活動など】

【論文】

膵頭十二指腸切除後、空腸瘻カテーテル先進部に発生した成人小腸重積症の1例

鹿児島大学医学雑誌 59:57-59, 2008

野間秀歳, 新地洋之, 前村公成, 又木雄弘, 蔵原弘, 前田真一, 北菌正樹, 夏越祥次, 高尾尊身

治療に難渋した外傷性胆汁瘻の1例

胆と膵 Vol. 30 (4) 415-419, 2009

渡邊照彦, 塗木 健介, 島田麻理緒, 牟礼洋

10年の経過中に形態の変化を見せた乳頭部腺腫の1例

胆と膵 Vol. 30(5) 525-528, 2009

渡邊照彦, 牟礼洋, 古賀哲也, 白濱 浩

【学会発表】

夏越祥次, 高尾尊身: 膵頭十二指腸切除術後におけるドレーン管理の変遷—開放式, 閉鎖式, J-VAC, 準閉鎖式ドレーン法の比較. (ポスター)

第20回肝胆膵外科学会, 山形, 2008年5月29日

野間秀歳, 新地洋之, 前村公成, 又木雄弘, 蔵原弘, 前田真一, 迫田雅彦, 久保文武, 上野真一

切除不能膵胆道癌に対する、抗癌剤感受性試験(HDRA法)に基づいた化学療法 (デジタルポスター)

第108回日本外科学会定期学術集会, 長崎, 2008年5月17日

野間秀歳, 新地洋之, 前村公成, 又木雄弘, 蔵原弘, 前田真一, 夏越祥次, 高尾尊身, 愛甲孝

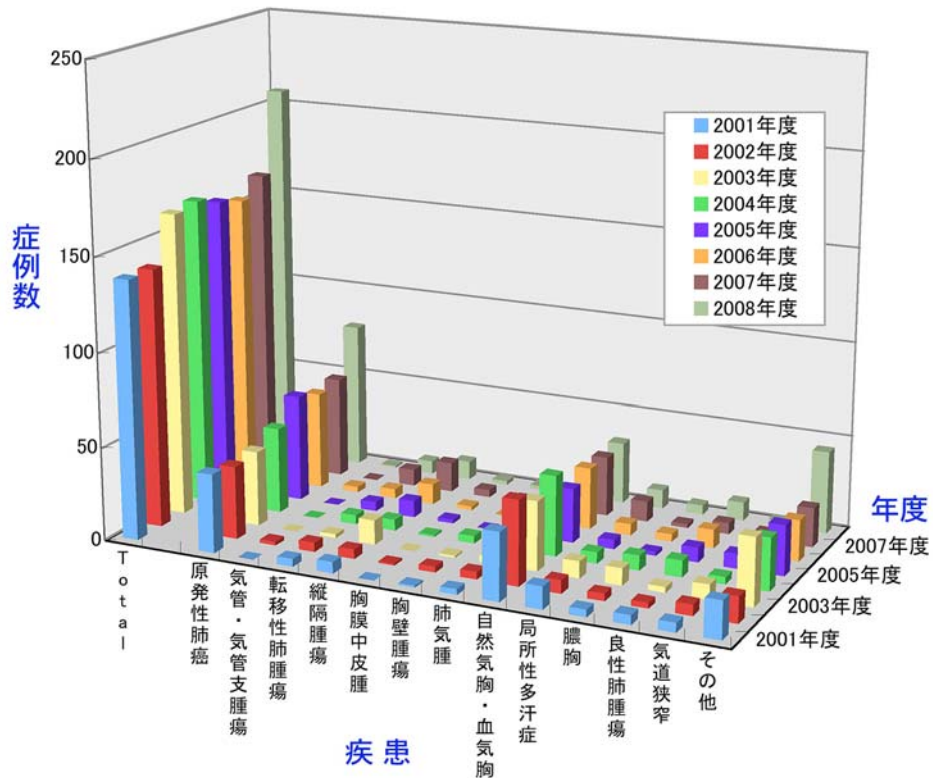
呼吸器外科

呼吸器外科部長 米田 敏
 日本外科学会認定医・専門医・指導医
 日本呼吸器外科学会専門医・指導医
 日本呼吸器外科専門医認定機構専門医
 日本胸部外科学会認定医・正会員
 日本肺癌学会評議員
 日本呼吸器外科学会評議員
 九州外科学会評議員
 日本胸部外科学会九州地方会評議員
 日本肺癌学会九州支部会評議員
 鹿児島肺癌化学療法研究会世話人
 鹿児島肺癌研究会世話人
 鹿児島呼吸器外科懇話会世話人
 七隈癌治療フォーラム世話人

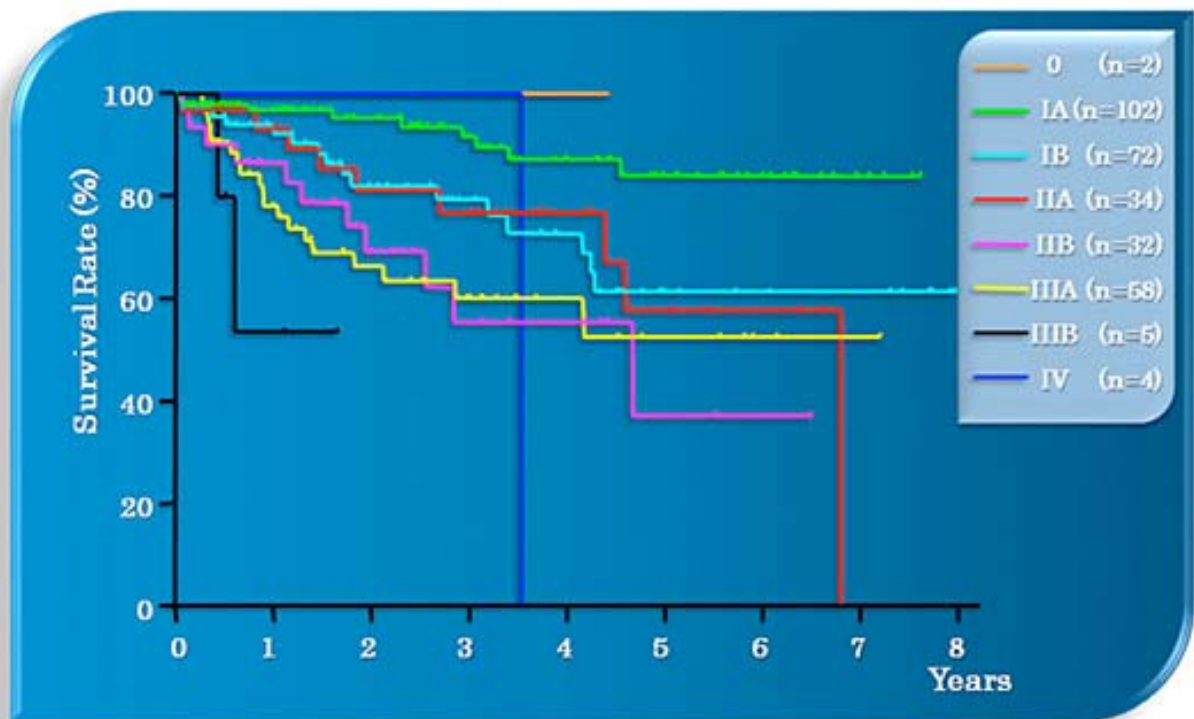
2008年度は、光武孝倫先生の異動により巻幡 聡先生が赴任。加藤文章先生は再留任。3人体制で外来、検査、手術に従事している。

2008年度手術件数は207例で、肺癌78例、転移性肺腫瘍7例、縦隔腫瘍10例、胸膜中皮腫2例、胸壁腫瘍2例、肺気腫2例、自然気胸・血気胸33例、局所性多汗症10例、膿胸5例、良性肺腫瘍10例、気道狭窄3例、その他44例であった。年次推移を以下に示す。

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
原発性肺癌	42	39	40	46	57	52	54	78
気管・気管支腫瘍	0	2	0	0	0	3	0	1
転移性肺腫瘍	4	5	2	5	5	5	9	7
縦隔腫瘍	6	5	13	6	9	11	16	10
胸膜中皮腫	0	1	0	1	2	2	4	2
胸壁腫瘍	1	3	1	4	0	0	2	2
肺気腫	3	4	4	4	7	4	3	2
自然気胸・血気胸	36	45	37	43	29	33	32	33
局所性多汗症	12	7	9	6	5	6	11	10
膿胸	4	4	9	8	2	4	2	5
良性肺腫瘍	5	3	3	9	8	10	6	10
気道狭窄	5	6	8	4	8	3	4	3
その他	20	14	36	28	27	22	21	44
Total	138	134	162	164	159	155	164	207



【2001年4月より2008年12月まで根治的手術がなされた309例の病期別生存】



【2008 年度業績】

【原著】

No	論文題名	発表雑誌	発行の巻(号):頁,年	著者
1	胸腺腫・胸腺癌の臨床病理 －WHO 分類に基づいて－	呼吸	28(1): 37-42, 2009	米田 敏、白日高歩

【症例報告】

No	論文題名	発表雑誌	発行の巻(号):頁,年	著者
1	A Rare Metastatic Case of Alpha-fetoprotein (AFP) - Producing Adrenocortical Carcinoma: Long Survival with Various Therapeutic Strategy Including of Lung Resection	Surg Today	38:275-8, 2008	Hamanaka W, Yoneda S, Shirakusa T, Shirahama H, Tashiro Y, Iwasaki A, Shiraishi T, Tsuru H

【学会報告】

No	演題名	学会名	場所、月日、年	演者
1	肺癌術後小腸転移をきたした 2 例	第 45 回九州外 科、口演	鹿児島、4 月 11 日、12 日、2008 年	加藤文章、米田 敏、光 武孝倫、牟礼 洋、田代 幸恵、白濱 浩、岩崎昭 憲、白日高歩
2	臨床病期 IA 期非小細胞肺癌に 対する治療	第 108 回日本 外科学会総会 口演	長崎、5 月 15-17 日、2008 年	米田 敏、加藤文章、光 武孝倫、松添大助、岩崎 昭憲、白日高歩
3	左乳癌放射線治療後膿胸開窓 術後の治療（続報）	第 25 回日本呼 吸器外科学会 総会、ビデオ	宇都宮、5 月 29-30 日、2008 年	米田 敏、光武孝倫、加 藤文章、岩崎昭憲、白日 高歩
4	CBDCA+PAC による術後補助療 法の成績（2004-2008.5）	第 47 回鹿児島 肺がん研究会、 口演	鹿児島、6 月 27 日、2008 年	巻幡 聡、米田 敏、加 藤文章
5	特異な経過を示した浸潤型胸 腺腫の一例	第 48 回鹿児島 肺がん研究会、 口演	鹿児島、12 月、 2008 年	加藤文章、米田 敏、巻 幡 聡、田代幸恵、白濱 浩
6	術後病期 II 期以上非小細胞肺 癌に対する CBDCA+PAC の成績	第 61 回日本胸 部外科学会総 会	福岡、10 月 13-15 日、2008 年	巻幡 聡、米田 敏、加 藤文章、岩崎昭憲、白日 高歩

【学会および学問に関連した社会活動】

第 47 回鹿児島肺がん研究会

2008 年 6 月 27 日 座長

整形外科、リハビリテーション科

整形外科部長 松永 俊二

整形外科の平成 20 年度の活動状況を報告します。平成 20 年度は当院勤務の整形外科の専門医が 1 名減少した結果手術総数は年間では約 50 件減少しました。しかし、脊椎関連の手術は昨年の 93 件から 141 件と約 1.5 倍増加しました。特に内視鏡下や顕微鏡下の最少侵襲手術の増加が顕著でした。クリニックの患者数は平均 118 名/日であり入院患者総数は 1081 名で平均稼働率は 118.9%で常に満床状態でした。脊椎、脊髄損傷や化膿性脊椎炎などの疾患が全県下から集まる状態で平均在院日数は 34.5 日と残念ながら目標を達成できませんでした。学術活動も日本の主要学会はもちろん海外の学会でも発表を行い今給黎総合病院の評価を高めることができました。また日本整形外科学会認定の臨床専門研修施設としての臨床教育活動が評価され鹿児島大学医学部整形外科教室からの研修医派遣も本年度から 2 名へ増員されています。また地域活動としても地域住民を対象とした公開講座なども実施し公益法人としての地域医療に貢献しました。本院の整形外科には日本整形外科学会専門医はもちろんですが脊椎脊髄外科手術指導医、リウマチ専門医、リハビリ専門医、スポーツ専門医などが常勤医として勤務し整形外科関連のあらゆる疾患に対応できる体制を整えています。また公的業務として厚生労働省難治性疾患脊柱靭帯骨化症調査研究班の班員活動も行っており厚生労働省からも高く評価されています。

【スタッフ紹介】 〈常勤医〉 9 名

今給黎尚典 (理事長)	日本整形外科学会 専門医
鬼丸高茂 (整形外科部長)	日本整形外科学会 専門医 日本スポーツドクター 認定医 日本リウマチ学会 認定医 日本リハビリテーション学会臨床認定医
松永俊二 (整形外科部長)	鹿児島大学医学部臨床教授 日本整形外科学会 専門医 日本整形外科学会 認定スポーツ医 日本整形外科学会 認定リウマチ医 日本整形外科学会 認定脊髄医 日本リウマチ学会専門医、指導医 日本リハビリテーション医学会 専門医 日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科手術指導医
古賀公明 (整形外科部長)	日本整形外科学会 専門医 日本整形外科学会 脊椎脊髄病医 日本脊椎脊髄病学会 指導医
宮口文宏 (専門医)	
中村俊介 (専門医)	
王興栄 (研修医)	
高橋健吾 (研修医)	
瀬戸山傑 (研修医)	

【人事異動】

退社 5名

堀之内達郎	平成20年12月31日	(佐々木病院へ転勤)
八木貴史	平成20年9月30日	(恩代田病院へ転勤)
高野純	平成20年12月31日退社	(南風病院へ転勤)
竹之内剛	平成21年3月31日退社	(阿久根市民病院へ転勤)
永田政仁	平成21年3月31日退社	(南風病院へ転勤)

入社 5名

王興栄	平成20年10月1日入社
高橋健吾	平成21年1月1日入社
瀬戸山 傑	平成21年4月1日入社
中村俊介	平成21年4月1日入社
宮口文宏	平成21年4月1日入社

【地域貢献】

在宅医療講演会 平成20年12月19日 於 今給黎総合病院講堂
『骨粗鬆症について』講師 松永俊二

【症例検討会】

レ線カンファレンス 毎日(祝祭日を除く)
鹿児島脊椎症例検討会 1回/月

【診療実績】

外来患者総数	43,137名(1日平均118名)	新患	4,662名		
入院患者総数	1,081名	平均稼働率	118.9%	平均在院日数	34.5日
手術総数	820件(時間外緊急手術51件)				

【今給黎総合病院整形外科手術件数】(平成20年4月～平成21年3月)

年間総手術件数 820件

<u>脊椎 (141件)</u>		経皮的髄核摘出術	7
後頭頸椎固定術	2	腰椎椎弓切除術	2
頸椎椎弓形成術	7	環納式椎弓形成術	1
頸椎後方固定術	18	体外式脊椎固定術	9
頸椎前方固定術	6	脊椎腫瘍摘出術	1
胸椎後方固定術	6	脊髄腫瘍摘出術	2
胸椎椎弓切除術	2	経椎弓根の椎体形成術	7
胸椎前方固定術	5	脊椎短縮術	1
腰椎後方固定術	15	<u>骨折 (278件)</u>	
腰椎開窓術	22	鎖骨骨折手術	18
腰椎前方固定術	3	肩甲骨骨折手術	1
椎間板ヘルニア摘出術	25	上腕骨近位部骨折手術	6

上腕骨外顆骨折手術	2	膝前十字靭帯再建術	4
上腕骨顆上骨折	13	膝後十字靭帯再建術	1
上腕骨骨幹部骨折手術	13	脛骨骨切り術	1
肘関節内骨折手術	6	足関節固定術	2
肘頭骨折手術	2	足関節靭帯再建術	2
橈骨遠位端骨折手術	18	足関節軟骨摘出術	3
前腕骨骨折手術	13		
舟状骨骨折手術	2	<u>腱・神経手術 (37件)</u>	
手指骨折手術	17	腓骨筋腱脱臼制動術	2
骨盤骨折手術	1	アキレス腱縫合術	4
大腿骨頸部骨折手術	88	腱縫合術(手)	4
大腿骨骨幹部骨折手術	13	腱鞘切開術	15
大腿骨顆上骨折	1	神経縫合術	1
膝蓋骨骨折手術	7	神経剥離術	7
脛骨近位部骨折手術	2	手根管開放術	4
下腿骨骨折手術	16		
足関節脱臼骨折手術	27	<u>腫瘍手術 (10件)</u>	
踵骨骨折手術	7	骨軟部腫瘍手術	10
足趾骨折手術	4		
変形治癒骨折手術	1	<u>抜釘術 (100件)</u>	100
<u>切断術 (6件)</u>		<u>その他 (53件)</u>	
下肢	6	開放創デブリードマン・創傷処理	30
上肢	0	創外固定術	5
		血管吻合術	2
<u>関節手術 (177件)</u>		経皮的鋼線固定術	11
肩関節脱臼手術	3	外反拇趾手術	4
肩鎖関節脱臼手術	3	骨延長術	1
肩腱板手術	7		
肘関節授動術	2	<u>感染症手術 (18件)</u>	
人工股関節再置換術	3	感染持続洗浄術	12
股関節脱臼観血的整復術	3	骨髓炎手術	6
人工股関節置換術	34		
人工骨頭置換術	36		
大腿骨回転骨切術	5		
骨盤骨切り術	14		
膝関節視鏡下滑膜切除術	7		
膝鏡下半月板切除術	13		
膝関節鏡視下関節授動術	2		
膝関節軟骨ドリリング	1		
膝オスグット・シュラッター病手術	1		
人工膝関節置換術	30		

【講演、学会活動など】

【論文発表】

Radiographic predictors for the development of myelopathy in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament. a multicenter cohort study

Spine 33: 2648-2650, 2008

Matsunaga S, Nakamura K, Seichi A, Yokoyama T, Toh S, Ichimura S, Satomi K, Endo K, Yamamoto K, Kato Y, Ito T, Tokuhashi Y, Uchida K, Baba H, Kawahara N, Tomita K, Matsuyama Y, Ishiguro N, Iwasaki M, Yoshikawa H, Yonenobu K, Kawakami M, Yoshida M, Inoue S, Tani T, Kaneko K, Taguchi T, Imakiire T, Komiya S.

Ossification of the posterior longitudinal ligament in dizygotic twins with schizophrenia: a case report

Modern Rheumatology 18: 277-280, 2008

Matsunaga S, Koga H, Kawabata N, Kawamura I, Otsuji M, Imakiire T, Komiya S

L2-L3 flexion-distraction injury treated by posterior fusion using ultra-high molecular weight polyethylene tape in a 7-year-old boy.

Pediatr. Neurosurg 45:73-77, 2009

Tofuku K, Koga H, Kawabata N, Yone K, Komiya S.

特集：整形外科基礎研究の Up to Date 加齢に伴う頸椎椎間板変性の基礎と臨床

臨床関節外科 基礎と臨床 27: 55-61, 2008

松永俊二、古賀公明、川畑直也、河村一郎、今給黎尚典、小宮節郎

脊椎感染症に対して高気圧酸素療法を併用した治療経験

西日本脊椎研究会誌 34: 33-34, 2008

鮫島浩司、川内義久、楊昌樹、松永俊二、古賀公明、川畑直也、湯浅伸也、小宮節郎

多施設研究・頸椎後縦靭帯骨化症における神経症状発現の画像的予測因子に関する研究

厚生労働省難治性疾患克服研究事業脊柱靭帯骨化症に関する調査研究班平成19年度総括・分担研究報告書 13-16, 2008

松永俊二

患者立脚型観点からみたリウマチ頸椎手術成績の評価に関する研究

厚生労働科学研究費補助金免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 リウマチ頸椎病変の治療に関するエビデンス形成のための体制確立と技術開発平成19年度研究報告書 第1冊分189-191, 2008

松永俊二

患者立脚型観点からみたリウマチ頸椎手術成績の評価に関する研究

厚生労働科学研究費補助金免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 リウマチ頸椎病変の治療に関するエビデンス形成のための体制確立と技術開発平成19年度総括・分担研究報告書 9-11, 2008

松永俊二

医学研究雑感

整形外科 59: 268, 2008

松永俊二

整形外科における生体内医療材料の安全な取り扱い

脊椎脊髄ジャーナル 21: 963-964, 2008

松永俊二

Bubble Liposome と超音波を併用したDrug Delivery System について

日本生体電気・物理刺激研究会 22: 49, 2008

上野宜功、横内雅博、松永俊二、小宮節郎

【学会発表】

A multicenter cohort study for pathomechanism of development of myelopathy in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament

Spine Week 2008 Geneva, Switzerland 2008/5/27

Matsunaga S, Koga K, Kawabata N, Imakiire T, Nakamura, Ijiri K, Komiya S

腹部大動脈瘤診断における整形外科医の重要性－医療訴訟防止のための提言

第81回日本整形外科学会学術総会 札幌 2008年5月22日

松永俊二、古賀公明、川畑直也、河村一郎、入来順一郎、今給黎尚典、井尻幸成、小宮節郎

頸椎後縦靱帯骨化症における神経症状発現予測因子に関する大規模横断的研究

第37回日本脊椎脊髄病学会 東京 2008年4月25日

松永俊二、中村耕三、古賀公明、川畑直也、今給黎尚典、井尻幸成、小宮節郎

統合失調患者における頸椎後縦靱帯骨化の頻度に関する調査

第52回日本リウマチ学会総会 東京 2008年4月22日

松永俊二、小宮節郎、砂原伸

小児腰椎医脱臼骨折の一例

第115回西日本整形災害外科学会 小倉 2008年6月14日

廣田仁志、永田政仁、松永俊二、井尻幸成、米 和徳、小宮節郎、古賀公明

環軸関節脱臼に対してtranslaminar screwを用い後頭頸椎固定術を行った2症例

第115回西日本整形災害外科学会 小倉 2008年6月14日

上藺直弘、武富栄二、古賀公明、竹之内剛、川畑直也、恒吉康弘、砂原伸彦、松永俊二、小宮節郎

側彎症手術におけるfluoronavigation下胸椎pedicle screw設置のCT評価

第42回日本側彎症学会 奈良 2008年10月10日

山元拓哉、井尻幸成、永吉隆作、前田淑美、竹之内剛、坂本光、河村一郎、小宮節郎、松永俊二

小児ダウン症患者における上位頸椎病変の重要性

第19回日本小児整形外科学会 東京 2008年12月12日

松永俊二

頸椎後縦靭帯骨化症における神経症状発現に関する大規模横断調査 —経過報告と今後の展望—

難治性疾患克服研究事業 脊柱靭帯骨化症に関する調査研究 平成19年度 第2回班会議 東京
2008年6月13日

松永俊二、小宮節郎

頸椎後縦靭帯骨化症における神経症状発現に関する研究 —画像以外の因子についての検討—

難治性疾患克服研究事業 脊柱靭帯骨化症に関する調査研究 平成19年度 第2回班会議 東京
2008年6月13日

松永俊二、小宮節郎

【講演】

頸椎後縦靭帯骨化症における脊髄症状発症の機序

第7回京都鴨川脊椎手術研究会 京都 2008年6月21日

松永俊二

OPLL研究の観点からみた脊椎外科医としての提言

第3回神戸脊椎外科カンファレンスセミナー 神戸 2008年11月29日

松永俊二

【教育活動】

久木田学園看護専門学校講座派遣医師

松永俊二： 運動器の構造と機能、病態生理、疾患の理解

講義時間 10時間

形成外科

形成外科部長 大塚 康二郎

【人事】(平成20年4月～)

平成20年3月に有川部長が退職され、平成20年4月より大塚が形成外科部長として就任いたしました。

平成19年4月から村田先生は、臨床、学会活動など精力的にこなされ、平成20年9月に聖マリア病院に転勤となりました。伊藤先生は平成20年4月から平成21年3月まで勤務され佐賀大学へ、吉田先生は平成20年10月から平成21年3月まで勤務され、高知大学外科へ異動となりました。代わりに平成20年4月に昭和大学より高木先生が、平成21年4月に千葉大学より久保先生、昭和大学より小野寺先生が就任致しました。それぞれの先生が、鹿児島島の形成外科の認知度、技術を認識して頂くために努力した1年でした。

【スタッフ紹介】

大塚康二郎

H12. 3月 福岡大学医学部卒業
5月 昭和大学形成外科学教室入局
その後昭和大学関連施設にて研修
H18. 7月 佐賀大学病院 助教
H19. 7月 今給黎総合病院勤務
H20. 4月～同 形成外科部長
*昭和大学 大学院博士課程修了
〈資格〉

形成外科専門医

医学博士

日本形成外科学会正会員

日本美容外科学会正会員

日本褥創学会正会員

日本頭蓋顎顔面学会正会員

高木信介

H14. 3月 昭和大学医学部卒業
5月 昭和大学形成外科学教室入局
その後昭和大学関連施設にて研修
H20. 4月～今給黎総合病院勤務
*昭和大学 大学院博士課程修了
〈資格〉

形成外科専門医

医学博士

日本形成外科学会正会員

日本褥創学会正会員

日本頭蓋顎顔面学会正会員

久保麻衣子

H17. 3月 千葉大学医学部卒業
4月 臨床研修医
H19. 4月 千葉大学形成外科入局
その後千葉大学関連施設にて研修
H21. 4月～今給黎総合病院勤務
〈資格〉

日本形成外科学会正会員

小野寺剛慧

H18. 3月 和歌山県立医科大学医学部卒業
4月 臨床研修医
H20. 4月 昭和大学形成外科学教室
H21. 4月～今給黎総合病院勤務
〈資格〉

日本形成外科学会正会員

日本口蓋裂学会正会員

吉田行貴

H12. 3月 千葉大学医学部卒業
5月 千葉大学形成外科学教室入局
その後、千葉大学関連施設にて研修
H20. 10月～H21. 3月 当院勤務
H21. 4月より高知大学外科へ転勤
〈資格〉
形成外科専門医
日本形成外科学会正会員

村田八千穂

H15. 3月 九州大学医学部卒業
5月 千葉大学形成外科学教室入局
その後千葉大学関連施設にて研修
H19. 4月～H20. 9月 当院勤務
H20. 10月より聖マリア病院形成外科勤務
〈資格〉
日本形成外科学会正会員

伊藤奈央

H17. 3月 信州大学医学部卒業
5月 臨床研修医
H19. 4月 昭和大学形成外科学教室入局
H20. 4月～H21. 3月 当院勤務
H21. 4月より 佐賀大学形成外科勤務
〈資格〉日本形成外科学会正会員
日本頭蓋顎顔面学会正会員

【近況】

平成 20 年度は特に大きな変化はなくすぎた感がありますが、患者様の来院数、手術件数は昨年を上回りました。地域の医療関係者、また患者様の形成外科への認識、理解が高まったためと考えます。また平成 19 年度より始まった鹿児島創傷セミナーの世話人の施設に選んで頂きました。そして出席者数が非常に多く、地域の創傷に関する関心も高まっていることが、創傷を扱う形成外科としてはうれしく感じました。

今後も皮膚悪性腫瘍、四肢外傷、顔面外傷中心に尽力していく所存です。

【診療状況】

外来診療 (月)～(土)午前 (火)午後

外来手術 (月)(水)(金)午後

H20 外来初診患者数 1605 人 外来手術件数 510 件

外来延べ人数 9434 人

入院手術 (月)～(金)

H20 入院患者数 438 人 入院手術件数 401 件

*手術件数の中には救急で処置(縫合患者)はカウントしておりません。

【手術症例（件数）】

*形成外科症例区分による記載

	入院	外来
1. 熱傷	8	0
2. 顔面骨骨折	5 0	0
3. 口唇・口蓋裂	0	0
4. 手・足の外傷、先天奇形	4 0	0
5. その他の先天奇形	4	1
6. 皮膚・軟部良性腫瘍	8 8	4 4 5
7. 皮膚・軟部悪性腫瘍	5 9	1 3
8. 瘢痕硬縮・ケロイド	2 9	2 4
9. 褥創・難治性潰瘍	6 2	3
1 0. 美容	6	4
1 1. その他	5 5	2 0

【講演・学会活動など】

【院内活動】

褥瘡回診（褥瘡委員会） 毎週（火）

【学会活動】

下肢関節拘縮と仙骨部突出度・局所圧の関連性についての検討

第51回日本形成外科学会 名古屋 2008年4月9日

高木信介

Tufted Angioma の4例

第51回日本形成外科学会 名古屋 2008年4月9日

高木信介

血管腫に対する免疫組織学的検討（第2報）—2重染色法との比較—

第5回血管腫・血管奇形研究会 名古屋 2008年4月12日

高木信介

Lymphatic Vessel Density in Infantile Hemangioma

- Lymphangiogenesis in Involuting Phase -

国際血管腫・血管奇形学会 (ISSVA) Boston 2008年6月24日

高木信介

自閉症小児の外傷性仮性動脈瘤の一例

昭和大学同門会学術集会 東京 2008年9月13日

大塚康二郎

自閉症小児の外傷性仮性動脈瘤の一例

第78回日本形成外科学会九州支部学術集会 鹿児島 2008年10月25日

伊藤奈央

開頭術後合併症の治療経験

第78回日本形成外科学会九州支部学術集会 鹿児島 2008年10月25日

村田八千穂

乳腺扁平上皮癌の一例

九州昭和大学学術集会 佐賀 2009年1月13日

高木信介

当院における褥瘡治療指針

九州昭和大学学術集会 佐賀 2009年1月13日

伊藤奈央

【主催研究会】

南九州外傷形成外科フォーラム（武田薬品共催：鹿児島） 2008年12月5日

第8回会長 大塚康二郎

演題：乳腺扁平上皮癌の一例 高木信介

当院における褥瘡治療指針 伊藤奈央

【講義】

H20年6～7月 毎週(火)原田学園：鹿児島医療技術専門学校にて講義 大塚康二郎

【平成21年度の計画】

基本的なスタンスは例年通り

鹿児島の医師・市民へ形成外科が行っている治療内容の浸透

外傷、創傷に対する最新の治療・考え方の浸透

脳神経外科

脳神経外科部長 西澤 輝彦

【特色】

脳神経外科は平成元年の総合病院化とともに開設されかれこれ 20 年となります。脳血管障害の外科的治療を中心に地域医療に貢献してきました。鹿児島で最も早くからカテーテルを用いた脳神経血管内治療を手がけ、特に脳動脈瘤の瘤内塞栓術と昨年から保険が認可された頸動脈狭窄症に対するステント留置術など、虚血性脳疾患に対する血行再建術には鹿児島の主導的施設として積極的に取り組んで来ました。特にこの数年は頸動脈ステント留置術は県内で単独施設としては最も症例数が多くかつ良好な治療成績を上げている施設です。また、急性期型総合病院にあって多発外傷を伴った頭部外傷や悪性腫瘍の脳転移なども多いのが特徴です。

【人事・スタッフ】

開設以来スタッフは 2~3 名を確保してきましたが、大学医局人事や常勤医の開業などのあおりでこの数年間は一人部長となり、救急の受け入れ制限や外来の縮小、大学からの非常勤の応援で何とかやりくりをしてきました。産科、小児科、救急医などと同様に脳神経外科医も減少傾向にあります。この様な人材の厳しい情勢の中、鹿児島大学脳神経外科医局のご好意でようやく平成 20 年 4 月から念願の常勤医再派遣を頂けることとなりました。何と鹿児島で初の子持ちの女性脳神経外科医である新里友美先生です。産休明けと子育ての真最中でもあり週 4 日の勤務ではありますが、マラソン最短記録 3 時間 15 分のスタミナとやる気を生かして大いなる戦力となっております。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉

部長（副院長、医療情報システム管理者兼任） 西澤 輝彦

1979 年 鹿児島大学卒業

〈取得資格〉

医学博士

日本脳神経外科学会専門医

日本脳神経血管内治療専門医

日本脳卒中学会治療専門医

鹿児島市立病院非常勤医師

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会（評議員）、日本脳卒中学会、脳卒中の外科学会、日本脳神経血管内治療学会、日本小児脳神経外科学会、日本脳神経外科コンGRESS、脳ドック学会他

新里 友美

2004 年 長崎大学卒業

〈所属学会〉日本脳神経外科学会、日本脳神経血管内治療学会

〈非常勤医師〉

有田 和徳	鹿児島大学脳神経外科教授
平野 宏文	鹿児島大学脳神経外科講師
永山 哲也	鹿児島大学脳神経外科講師
寺田 耕作	串木野脳神経外科センター

【診療実績】

入院患者疾患別分類 (2008年1～12月)

脳腫瘍	神経膠腫	9
	髄膜腫	2
	下垂体腺腫	1
	転移性脳腫瘍	7
	合計	19

血管病変	クモ膜下出血(破裂脳動脈瘤)	3
	未破裂脳動脈瘤	4
	脳、硬膜動静脈奇形	3
	高血圧性脳出血	10
	脳梗塞	2
	動脈狭窄(閉塞)	25
	モヤモヤ病	2
	その他	1
合計	50	

慢性硬膜下血腫	合計	16
---------	----	----

頭部外傷	急性硬膜外血腫	3
	急性硬膜下血腫	2
	脳挫傷	6
	その他	9
	合計	20

機能的脳神経外科	てんかん	1
	その他	5
	合計	6

感染症	その他	1
	合計	1

その他	合計	7
-----	----	---

合計 119人

【手術症例】

開頭術	腫瘍 全摘出術/亜全摘	6
	動脈瘤 クリッピング	1
	血管吻合術	2
	その他	2
穿頭術	硬膜下血（水）腫洗浄術	15
	定位的血腫吸引術	2
	脳室ドレナージ	1
短絡術	V-P シャント	4
血管内手術	動脈瘤	2
	血管形成術(PTA)	2
	血管形成術(STENT)	20
	その他	1
その他		8

合計

66

【講演、学会活動など】

【全国学会】

頸部頸動脈狭窄症におけるステント留置術

—131 病変における治療成績とフォローアップの結果—

第 33 回日本脳卒中学会総会 京都 2009 年 3 月 20 日

永山哲也、西牟田洋介、菅田真生、森正如、西澤輝彦、新納正毅、有田和徳

頸部頸動脈狭窄症におけるステント留置術

—連続 153 病変における治療成績とフォローアップの結果—

第 67 回日本脳神経学会総会 盛岡 2008 年 10 月 2 日

永山哲也、西牟田洋介、菅田真生、森正如、西澤輝彦、有田和徳

眼虚血症候群にて発症した頸部内頸動脈狭窄症

—経皮的ステント留置術施行群での検討—

第 67 回日本脳神経学会総会 盛岡 2008 年 10 月 2 日

菅田真生、永山哲也、西牟田洋介、西澤輝彦、山下高明、坂元泰二、有田和徳

PurcuSurge GuardWire を用いたガイディングカテーテル誘導法

第 24 回日本脳神経血管内治療学会総会 名古屋 2008 年 11 月 14 日

永山哲也、菅田真生、西牟田洋介、森正如、西澤輝彦、有田和徳

眼虚血症候群に対する頸動脈ステント留置術（CAS）の視機能に於ける効果

第 24 回日本脳神経血管内治療学会総会 名古屋 2008 年 11 月 14 日

菅田真生、永山哲也、西牟田洋介、西澤輝彦、山下高明、坂元泰二、有田和徳

【地区講演会】

鹿児島大学脳神経外科におけるC A Sの現状

第10回脳と血管研究会 鹿児島 2009年3月14日

永山哲也、西牟田洋介、菅田真生、森正如、西澤輝彦、新納正毅、有田和徳

頭蓋内外に進展した腫瘍の一例

第21回鹿児島脳神経外科フォーラム 鹿児島

新里友美、西澤輝彦、平野宏文

滑車神経鞘腫が疑われた一例

第22回鹿児島脳神経外科フォーラム 鹿児島 2008年11月28日

有田和徳、西澤輝彦

副鼻腔炎に起因した硬膜下膿瘍の一例

第22回鹿児島脳神経外科フォーラム 鹿児島 2008年11月28日

新里友美、西澤輝彦、平野宏文 川原隆

【今後の展望】

当院は24時間365日の急性期患者受け入れを使命としていますが、脳神経外科にあっては人手不足のため夜間休日の緊急手術を行うのには無理があり、クモ膜下出血などに関しては制限なしに受け入れられる状態にはありません。幸い神経内科が充実しており、他施設の様に脳神経外科が内科的治療主体の患者さんを診ることはないばかりか、外科的適応のない脳出血なども診ていただき随分と助かっています。この利点を生かす意味でも更に人員を確保し、外科的な疾患には幅広く対応できる受け入れ体制を再構築できるように努力して行きたいと思えます。

産婦人科

産婦人科部長 寺原 賢人

産婦人科を取り巻く環境は年々厳しさを増しております。
中でも周産期医療は産科医、新生児科医の減少に歯止めが掛からず深刻な現象を生みだしています。
即ち、地方にあっては産科医の集約化が進み産科を閉鎖せざるを得ない施設も増加しています。

そのような環境にあって当院は以前から宮崎大学、鹿児島市立病院のご支援のもと周産期医療に力を注いで参りました。

現在当院は地域周産期母子医療センターに指定され、NICUも9床に増床しました。母体搬送も積極的に受け入れて鹿児島県の周産期医療ネットワークの一役を担っております。

婦人科部門も腫瘍を中心に手術、化学療法を積極的に行っております。詳細は表を参照ください。

平成21年5月からは宮崎大学から徳永修一 Dr を部長としてお迎えし、産科部門の充実を図ります。皆様方のご期待に添えるよう頑張っておりますのでなご一層のご指導ご鞭撻をお願いいたします。

【平成20年度産婦人科勤務医】

寺原賢人	S. 63. 1. 1	——	現在
丸山有子	H. 19. 6. 1	——	現在
加藤明彦	H. 19. 10. 1	——	現在
土井宏太郎	H. 19. 4. 1	——	H. 21. 4. 30
谷口 肇	H. 19. 5. 1	——	H. 20. 9. 30
徳永修一	H. 21. 5. 1	——	現在

【年度別統計】

		17年度	18年度	19年度	20年度
新患総数		943	972	944	845
	婦人科	191	197	196	208
入院数	産科	209	186	258	265
	新生児科	127	170	168	142
	計	527	553	622	615
手術件数	婦人科	136	108	153	128
	産科	31	66	69	62
	計	167	174	222	190
分娩数		111	156	182	185
	(帝王切開)	(21)	(59)	(67)	(54)

【年度別入院患者数】

年度	婦人科	産科	新生児科	計
S. 63	131	111		242
H. 1	138	136		274
2	145	139		284
3	175	139		314
4	142	147		289
5	167	173		340
6	177	177	40	394
7	173	172	46	391
8	175	172	59	406
9	160	179	107	446
10	130	157	82	369
11	175	206	100	481
12	161	214	81	456
13	220	236	117	573
14	244	183	124	551
15	276	179	145	600
16	243	199	150	592
17	191	209	127	527
18	197	186	170	553
19	196	258	168	622
20	208	265	142	615
計	3824	837	1658	9321

【入院患者内訳】

産科		婦人科	
分娩	185	子宮筋腫	31
切迫流産	8	子宮脱	3
切迫早産	46	子宮内膜症	10
妊娠高血圧症	19	卵巣のう腫	36
子宮外妊娠	7	子宮頸部癌	19
		子宮体部癌	8
		卵巣癌	15
延患者数	265		208

【年度別手術内訳】

	術式	17年度	18年度	19年度	20年度
子宮筋腫	単純子宮全摘出術	32	19	18	17
	筋腫核出術	8	15	9	14
子宮腺筋症	単純子宮全摘出術	5	4	9	2
子宮脱	根治術	20	10	15	3
子宮頸部癌	円錐切除	12	10	24	12
	単純子宮全摘術	0	0	2	2
	拡大子宮全摘出術	1	0	1	1
子宮体部癌	広汎子宮全摘出術	0	2	1	1
	単純子宮全摘出術	0	3	1	3
	拡大子宮全摘出術	1	1	2	1
	広汎子宮全摘出術	0	0	1	1
卵巣嚢腫	附属器切除術				
	嚢腫摘出術	18	30	25	36
卵巣癌	根治手術	6	3	7	7
	化学療法後再開腹	2	0	0	1
不妊症他	内視鏡下手術	19	6	13	6
産科	帝王切開術	21	59	67	54
	子宮外妊娠手術	10	6	9	7
	経管縫縮術	0	1	1	1
その他		7	5	17	21
計		162	174	222	190

【悪性疾患内訳】

	手術	化療	手+放	手+化	放+化	放射線	計
子宮頸癌	9	1	1	1	3	0	15
子宮体癌	1	1	0	4	0	0	6
卵巣癌	1	8(3)	0	6(2)	0	0	15(5)
計(死亡)	11	10(3)	1	11	3	0	36(5)

【学会発表】

ワークショップ「前置・癒着胎盤の取り扱い」

第35回日本産婦人科医学会学術集会 福井市 平成20年10月11日

土井宏太郎

ワークショップ「癒着胎盤の取り扱いについて」

山水会 平成20年2月18日

土井宏太郎

新生児内科

新生児科部長 丸山 有子

鹿児島県地域周産期母子医療センターとして認定を受けました

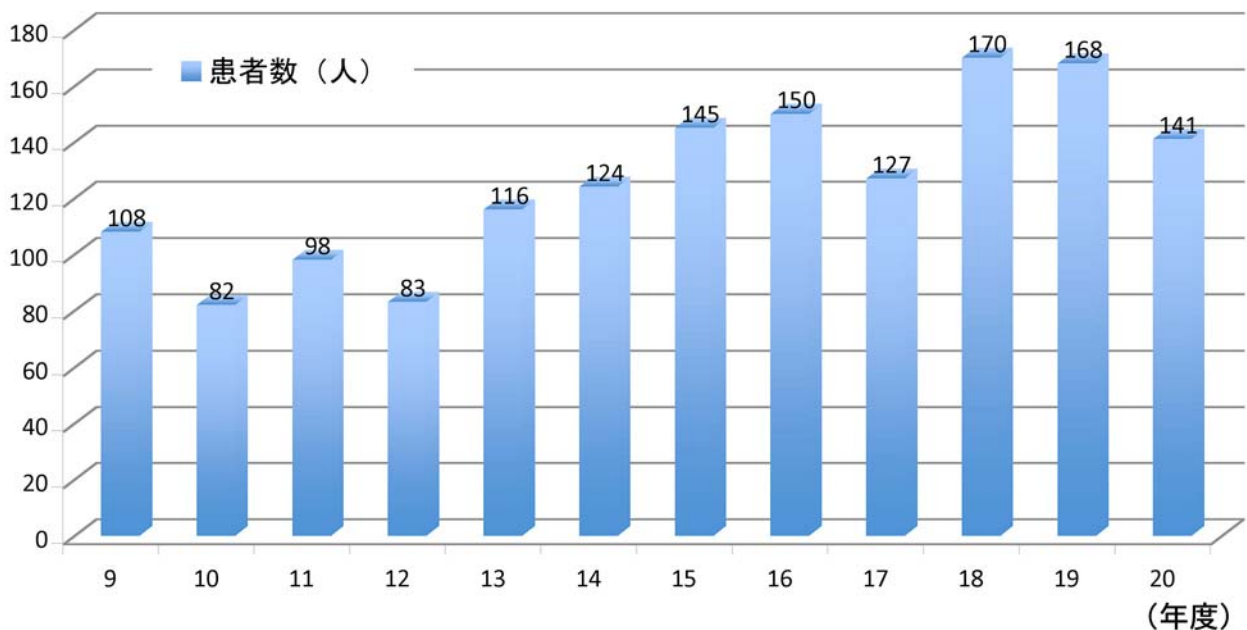
鹿児島県では、総合的な周産期医療体制を整備し、安心して子供を産み育てる事ができる環境づくりを進めるため、まず平成19年度に、鹿児島市立病院を「総合周産期母子医療センター」に指定しました。そして今年度は、当院を含む県内4病院が「地域周産期母子医療センター」の認定を受けました。今後、ますます鹿児島県の周産期医療における当院の役割は明確になるとおもわれます。

【人事】

- NICU・GCUは、前年度に引き続き、新生児科の丸山、加藤明彦先生、産婦人科所属の土井宏太郎先生の3名で日々の診療を行いました。また、スーパーローテートで鮫島洋一先生（5月～6月）、脇田和博先生（12月～1月）、中山龍次郎先生（2月～3月）が産婦人科～NICU・GCUで研修されました。
- 看護スタッフは30名（Ns.29名、看護助手1名）、NICU専任作業療法士1名。（平成21年3月現在）
- 乳幼児の発達検査のために、吉永明美臨床心理士が、12月より月1回のペースで鹿児島市立病院より来てくださるようになりました。また、9月から始まった療育指導外来には、東京小児療育病院より奈須康子先生に来ていただいています。

【入院状況】

【入院総数】



【出生体重別患者数内訳】

年度(平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
～999g	6	8	12	3	3	5	7	7	3	0	1	3
1000g～1499g	23	21	16	16	15	16	25	36	27	18	32	35
1500g～1999g	31	25	26	21	35	48	53	58	46	67	61	43
2000g～2499g	18	9	28	21	36	23	33	25	34	55	31	35
2500g～	30	19	16	22	27	32	27	24	17	30	43	25

【入院経路別患者数および院内出生率】

年度(平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
当院外来管理後の院内出生	31	24	13	10	25	17	24	14	15	24	26	9
母体搬送後の院内出生	4	3	3	17	27	20	17	15	17	33	51	42
市立病院より新生児搬送	67	51	69	35	48	70	94	112	89	100	75	66
他院より新生児搬送	6	4	13	21	16	17	10	9	6	13	16	24
院内出生率(%)	32.4	32.9	16.3	32.5	44.8	29.8	28.3	19.3	25.2	33.5	45.8	36.2

【人工呼吸管理施行患者数】

年度(平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
人工呼吸管理施行数	9	2	6	9	9	8	5	1	4	4	35	41

【月別シナジス接種者数】

月	9	10	11	12	1	2	3	4
人数	39	45	47	59	61	68	77	63

【外来状況】

〈新生児フォローアップ外来〉

平成19年6月から週1回でスタートした外来ですが、2年目に入り1日の患者数も増加し、年間受診者数はのべ415名でした。20年度も引き続き婦人科外来で行いましたが、そろそろ手狭になってきました。

〈シナジス外来〉

当院で管理した児のうち20年度にシナジス投与対象であった児は113名でしたが、そのうち6例は投与を希望されませんでした。転居や遠方であるために他施設に投与の依頼をした児が10名、当外来でシナジス投与を受けた患児は97名でした。また、月別接種者数は表のとおりです。

月	9	10	11	12	1	2	3	4
人数(人)	39	45	47	59	61	68	77	63

〈発達検査〉

12月より開始し、20年度は、新版K式発達検査を8例に行いました。

〈療育相談外来〉

9月より月1名ずつ行い、20年度は7名が受けました。

【その他の活動状況】

- PIPC(早産児の両親学級)
13回開催し、96人の方が聴講してくださいました。
- 月曜レクチャー
20年度は37回行いました。参加者は平均11人/回となっていました。
- 新人ナースのための集中講義
4月～5月には新人7人に対して合計7回、系統的に講義を行いました。
- 茨聡先生による新生児学レクチャー
20年度も合計12回、新生児医療に関するレクチャーを行っていただきました。

【講演・学会発表など】

Fetal manifestations and poor outcomes of congenital cytomegalovirus infection.

第15回アジアオセアニア周産期学会 名古屋 2008年5月

Yuko Maruyama et.al.

母児共に救命された劇症型A群連鎖球菌感染症の一症例

第26回日本産婦人科感染症研究会 宮崎 2008年6月

加藤明彦 他

CMV 胎内感染症治療の展望

第44回日本周産期新生児医学会 シンポジウム5「周産期ウイルス感染症の診断と治療」

横浜 2008年7月15日

丸山有子 他

サイトメガロウイルス胎内感染の胎児所見と予後-胎児治療の対象とは?-

第21回宮崎感染症研究会 宮崎 2008年8月7日

丸山有子

サイトメガロウイルス胎内感染児25例の出生時臨床所見と聴覚障害

第53回日本未熟児新生児学会 札幌 2008年10月

丸山有子 他

看護師がフォローアップ外来に参加する意義～看護師と家族の意識調査より～
第 18 回日本新生児看護学会 札幌 2008 年 10 月
原田純子

NICU と地域保健機関との連携～退院後の養育環境が困難な家族とのかかわりを通して～
第 42 回鹿児島県保健看護研究会 鹿児島 2009 年 1 月
中尾咲子 他

新生児無呼吸発作の診断-PTT(pulse transit time)の有用性と限界
第 11 回新生児呼吸療法・モニタリング フォーラム 長野 2009 年 2 月
丸山有子 他

人工呼吸管理中のケアとの現状と課題～教育内容の振り返りとアンケートの結果より
第 11 回新生児呼吸療法・モニタリング フォーラム 長野 2009 年 2 月
富永貴子 他

退院時の栄養に関する指導の見直し
巻後部必須研修 卒後 10 年目研修 院内 2009 年 2 月
勝木千夏

【講義】

土井宏太郎 : 久木田学園看護専門学校 看護科 (母性看護学・女性生殖器) 30 時間
丸山有子 : 南学園 鹿児島医療福祉専門学校看護学科 疾病論VI (母性 正常・異常) 15 時間

【資格取得等】

加藤明彦 : 日本周産期・新生児医学会による新生児蘇生法「専門」コースインストラクター認定
古川秀子 : 日本周産期・新生児医学会による新生児蘇生法「専門」コースインストラクター認定
土井宏太郎 : 日本周産期・新生児医学会による新生児蘇生法「専門」コース修了認定
有村こずえ : 日本周産期・新生児医学会による新生児蘇生法「専門」コース修了認定
原田純子 : 日本周産期・新生児医学会による新生児蘇生法「専門」コース修了認定
石川めぐみ : 三学会合同呼吸療法認定士資格取得

【平成 21 年度の計画】

- NICU9 床への増床
- 新生児外来の拡充と移転
- 新生児科初期研修体制の確立

小児科

小児科部長 玉田 泉

【診療内容・特徴】

平成 20 年度も銚之原昌医師、堀之内兼一医師、玉田の 3 名で診療いたしました。（又鹿児島大学病院小児科のサテライト外来として月一回溝田先生が内分泌外来診療をされました。）

一般外来のほか、堀之内先生は小児腎疾患患者の follow、また玉田は小児内分泌疾患の専門外来を実施しています。一般外来の特徴としては検査の出来る総合病院といった位置付けでの受診が多く、セカンドオピニオンを求めてあるいは検査を希望されての受診が多いようです。その他市県からの委託による乳幼児健診、予防接種業務を行っており、又学校健診・学校検尿や生活習慣病予防健診での精密受診者の受け入れや精密検査後の follow も行っています。鹿児島市の小児救急体勢が整備され、当院では小児の救急車の受け入れはほとんどなくなりました。入院業務では比較的軽症の一般小児疾患の入院加療、また専門性を生かした検査入院や教育入院などを行いました。

【診療状況】

外来診療 外来患者数延べ 10,801 人
入院患者数 156 人

【検査件数、治療成績など】

入院疾患統計	急性気管支炎・肺炎	67 人
	急性上気道炎	22 人
	急性胃腸炎	16 人
	成長ホルモン分泌能精査入院	11 人
	気管支喘息	10 人
	糖尿病（教育・コントロール）	5 人
	その他	25 人

【スタッフ紹介・講義/院外活動】

銚之原昌 小児科専門医、小児リウマチ専門医
鹿児島子どもの虐待問題研究会 会長、年 6 回協議会開催
講義/院外活動
鹿児島市すこやか子ども元気プラン地域協議会 委員
鹿児島文化サロン 委員、講演活動など
鹿児島県乳児一斉健診 委員；健診、育児相談など
鹿児島県膠原病研究会 代表世話人、年 2 回研究会開催
その他； 新任保育士研修会講師、鹿児島県保育所乳児保育研究会講師、
南日本子ども健康セミナー； 育児相談など

堀之内兼一 小児科専門医、日本補完代替医療学会学識医
講義/院外活動
鹿児島市医師会学校腎臓病健診 委員
久木田看護専門学校 講師

玉田泉 小児科専門医、日本糖尿病協会登録医
講義/院外活動
加治木女子高等学校看護学科専門課程 講師
鹿児島大学小児科 非常勤講師

【2008 年度業績】

【学会発表】

当科における 15 才未満発症バセドウ病症例の治療経過

第 81 回日本内分泌学会 青森 2008 年 5 月 16-18 日

溝田美智代、玉田泉、池田さやか、大坪喜代子、河野嘉文

医療機関における乳幼児健康診査のあり方—医療機関と保健所での健診受診者の評価と比較

第 55 回日本小児保健学会 札幌市 2008 年 9 月 25-27 日

白水美保、山下早苗、銚之原昌、武井修治

3) アンドロゲン不応症が疑われた 2 例

第 42 回日本小児内分泌学会 米子 2008 年 10 月 2-4 日

池田さやか、溝田美智代、荒田道子、玉田泉、大坪喜代子、森田 智、檜作和子、河野嘉文

4) 糖尿病の発見をきっかけに不登校を改善できた 2 例

第 42 回日本小児内分泌学会 米子 2008 年 10 月 2-4 日

玉田泉、堀之内兼一、銚之原昌、大坪喜代子

初発時に呼吸器症状の乏しい肺出血を起こした SLE 女子例

第 18 回日本小児リウマチ学会 北海道 2008 年 10 月 3-5 日

山崎雄一、今中啓之、久保田知洋、根路銘安仁、前野伸昭、野中由希子、赤池治美、森浩純、重
森雅彦、嶽崎智子、銚之原昌、武井修治、河野嘉文

当科で経験した若年性サルコイドーシス (EOS) の 4 例

第 35 回九州リウマチ学会 宜野湾市 2008 年 3 月

今中啓之、根路銘安仁、野中由希子、赤池治美、前野伸昭、久保田知洋、嶽崎智子、河野嘉文、
銚之原昌、岡藤郁夫、西小森隆太、武井修治。

脱毛、意識消失発作など多彩な症状を呈した Turner 症候群の 1 例

第 8 回日本内分泌学会九州地方会 長崎市 2008 年 8 月 30 日

溝田美智代、玉田泉、池田さやか、大坪喜代子、檜作和子、森田智、河野嘉文

発症早期に infliximab を使用し中止可能であった RF 陰性多関節型若年性特発性関節炎の 1 例

第 36 回九州リウマチ学会 佐賀市 2008 年 9 月

根路銘安仁、今中啓之、野中由希子、鍬田直美、安村純子、山崎雄一、久保田知洋、前野伸昭、嶽崎智子、重森雅彦、森 浩純、銚之原昌、武井修治

初発時に呼吸器症状の乏しい肺出血を起こした SLE 女児例

第 36 回九州リウマチ学会 佐賀市 2008 年 9 月 6 日

久保田知洋、今中啓之、根路銘安仁、武井修治、前野伸昭、野中由希子、赤池治美、森浩純、山崎雄一、重森雅彦、嶽崎智子、銚之原昌、河野嘉文

血球貧食症候群による DIC で消化管出血をきたし出血性ショックになった MCTD 合併が疑われるシェーグレン症候群の 1 例

第 36 回九州リウマチ学会 佐賀市 2008 年 9 月 6-7 日

鍬田直美、米衛ちひろ、安村純子、今中啓之、根路銘安仁、野中由希子、武井修治、玉田泉、銚之原昌

異常行動で発症（オセルタミビル服用なし）し、可逆性脳梁膨大部病変を呈したインフルエンザ脳症の 1 例

第 138 回日本小児科学会鹿児島地方会 鹿児島市 2008 年 6 月 8 日

重森雅彦、渡邊健二、吉留幸一、佐野のぞみ、濱田慎二、堀之内兼一、玉田泉、銚之原昌

急性巣状細菌性腎炎の 1 例

第 138 回日本小児科学会鹿児島地方会 鹿児島市 2008 年 6 月 8 日

堀之内兼一、玉田泉、銚之原昌、井手上淳一、大久保幸一、馬渡浩介

当科で経験した小児期発症 SLE の多臓器病変の実態

第 138 回日本小児科学会鹿児島地方会 鹿児島市 2008 年 6 月 8 日

安村純子、今中啓之、根路銘安仁、野中由希子、久保田知洋、鍬田直美、赤池治美、前野伸昭、重森雅彦、嶽崎智子、銚之原昌、武井修治

アンドロゲン不応症が疑われた 2 例

第 139 回日本小児科学会鹿児島地方会 鹿児島市 2008 年 10 月 12 日

池田さやか、溝田美智代、玉田泉、大坪喜代子、森田智、檜作和子、河野嘉文、田中主美、荒田道子

I 型糖尿病患者の学校生活についてー学校給食についてのアンケート結果も含めてー

第 22 回鹿児島県小児保健学会鹿児島市 2008 年 8 月 24 日

溝田美智代、池田さやか、大坪喜代子、河野嘉文、玉田泉、森田智

慢性甲状腺炎の経過中にバセドウ病に移行した 1 例。

第 13 回鹿児島小児内分泌研究会 鹿児島市 2008 年 11 月 8 日

玉田泉、堀之内兼一、銚之原昌。

女性化乳房で発見された Klinefelter 症候群の 1 例

第 13 回鹿児島小児内分泌研究会 鹿児島市 2008 年 11 月 8 日

池田さやか、溝田美智代、玉田 泉、森田 智、大坪喜代子、檜作和子、河野嘉文

通院中断後に再燃しインスリン療法を再開した 2 型糖尿病の 1 例

第 13 回鹿児島小児内分泌研究会 鹿児島市 2008 年 11 月 8 日

溝田美智代、玉田 泉

長期の HCG-HMG 療法後に挙児を得た複合型下垂体機能低下症の 1 例

第 39 回九州小児内分泌談話会 福岡 2009 年 2 月 7 日

溝田美智代、池田さやか、玉田 泉、大坪喜代子、檜作和子、森田智、小野星吾

長期の HCG-HMG 療法後に挙児を得た複合型下垂体機能低下症の 1 例

第 140 回日本小児科学会鹿児島地方会 鹿児島市 2009 年 2 月 8 日

溝田美智代、池田さやか、玉田泉、大坪喜代子、檜作和子、森田 智、小野星吾

【原著】

Proinflammatory cytokines in cerebrospinal fluid from patients with nontyphoidal *Salmonella* encephalopathy.

Pediatr Infect Dis J 27(6):558-9. 2008

Imamura M, Nishi J, Tamada I, Tenokuchi Y, Toyoshima M, Kawano Y.

付添者を介した小児病棟入院患者のプライバシーセンス調査.

小児保健研究 67(1):116-120. 2008

福村玲奈、根路銘安仁、今中啓之、銚之原昌、河野嘉文、武井修治

医療機関における乳幼児健康診査のあり方に関する研究 一医療機関と保健所での健診に対する健診受診者の評価と比較. 新しい時代に即応した乳幼児健診のあり方に関する研究.

平成 19 年度総括・分担研究報告書: 145-151. 2008

武井修治、銚之原昌、山下早苗、白水美保、折田勝郎

医療機関における乳幼児個別健診の現状とあり方に関する研究-医療機関と保健所での健診に対する健診受診者の評価と比較-

厚生労働省科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)「新しい時代に即応した乳幼児健診のあり方に関する研究」平成 17~19 年度総合研究報告書: 145-151. 2008

銚之原昌、武井修治、白水美保、折田勝郎

【平成 21 年度計画】

引き続き銚之原・堀之内・玉田の 3 名で診療します。平成 21 年 6 月で溝田先生の内分泌外来は終了となります。銚之原先生は鹿児島県立短期大学生生活科学科、食物栄養学専攻の講義開始予定です。

泌尿器科

泌尿器科部長 中目 康彦

平成 21 年 4 月より下荒磯先生、米澤先生が着任され、種子田部長との 4 名体制で診療を行っています。外来診療は午前中のみで午後からは手術、検査です。木曜日は午前から手術のため休診としています。

手術は移植以外なら緊急を問わず小児から高齢者まで受入可能で、腹腔鏡下手術から尿失禁手術（TVT、TOT）幅広く治療しています。本年中には骨盤内臓器脱手術（TVM）ができるよう準備中です。血液透析器は 3 台あり入院患者と緊急透析が対象です。ICU と併設で透析室があり専属の看護師、臨床工学士さんのおかげでいつでも対応可能です。CHDF は ICU 内で施行、麻酔科と協力して行っています。平成 19 年 11 月より前立腺癌に対する新しい放射線療法として密封小線源療法を始め、平成 21 年 8 月までに 80 名以上の方が治療を受けられました。根治性が極めて高く、入院期間が 3 ～ 5 日と短く合併症が軽微で将来性の高い治療法です。ただ、早期癌が適応となりますので多くの方が早目に PSA 検診を受けられることを泌尿器科医としては切望します。

【平成 20 年 1 月～12 月手術統計】

分類	手術	件数	分類	手術	件数
腎臓・尿管	腎摘除術	10	尿道	TVT 手術	1
	腹腔鏡下腎摘除術	2		尿失禁手術(TOT)	1
	HALS	2		内尿道切開術	8
	腎部分切除術	5		尿道カルンクラ手術	1
	腎尿管全摘術	5		尿道ステント	1
	腹腔鏡下腎尿管全摘術	1		コラーゲン注入術	5
	腎盂形成術	2	前立腺	経尿道的前立腺手術(TUR-P)	55
	経皮的腎盂切開術	1		経尿道的前立腺生検	1
	腎生検	3		前立腺全摘除術	23
	腎嚢胞アルコール固定術	1		前立腺密封小線源療法	39
	腎瘻造設	6	陰茎・精巣	精巣摘除術	4
	腎嚢胞穿刺	1		精巣固定術	3
	経皮的腎結石砕石術 (PNL)	1		精巣外傷手術	1
	経尿道的尿管結石砕石術 (TUL)	13		精巣上体摘出術	1
	経尿道的尿管拡張術	2		精索静脈瘤結紮術	1
	尿管鏡検査	6		陰嚢、会陰部デブリードメント	4
	尿管皮膚瘻造設術	3		陰茎腫瘍切除術	1
	尿管ステント抜去	3		環状切開術	3
	尿管ステント留置	1		その他	シャント造設術
	尿管切石術	1	リンパ節廓清術		2
膀胱	経尿道的膀胱腫瘍切除術(TUR-BT)	82	リンパ節生検		1
	経尿道的膀胱生検	2	ソ径リンパ節摘除術		2
	経尿道的電気凝固術(TUC)	2	切開排膿術		1
	膀胱全摘除術	9	尿膜管摘除術	3	
	膀胱部分切除術	2	合計		167
	膀胱異物摘出術	1			
	膀胱尿管逆流(VUR)防止術	2			
	膀胱瘻造設	2			
	膀胱瘻閉鎖	1			

眼科

眼科部長 北村 昌弥

平成 20 年度は大きな人事異動がありました。4 月には前任の土屋先生、春山先生が異動し、代わりに須田先生、後藤先生が赴任となりました。さらに 8 月には 7 年間勤務されていた佐藤先生が退職され、北村先生が部長として赴任されました。平成 21 年 4 月には後藤先生と交代で岡和田先生が赴任しました。今後とも宜しくお願い致します。

【外来スタッフ】

川崎看護師、郡山看護師、川口看護師、熊迫看護師の 4 名が交代で担当しております。診療補助部は椿視能訓練士、二反田、木之下、秋山、鶴之藪、料屋、受付は赤塚、泊で行っております。当科は検査項目が多数あり、外来スタッフは外来を所狭しと走り回っております。

【外来診療】

午前は 3 人体制（木曜のみ 2 人体制）で、午後は 1 人体制で診療を行っております。また土曜日は新患と予約のみ診療を行っております。

【診療内容】

平成 20 年度は新患数 1,819 名、再来数は 13,330 名と 1 日平均 70 名近くの患者が来院しております。新患は近医からの紹介がほとんどで、手術依頼や難治症例が多数あります。また外来では普通診療の他に予約で処置レーザー治療も行っております。

【手術症例】

内眼手術、外眼手術総数で約 800 件とやや減少しましたが、これは佐藤先生から北村先生の交代にあたり、8、9 月の手術を抑制していたためと思います。現在 1 ヶ月あたり約 80 件の手術をしており来年度は例年同様の件数になると思います。

【入院治療】

4 階北病棟が眼科病棟です。稲森師長を中心に看護、治療にあたっております。高齢者、糖尿病、透析患者、認知症を有する方が多く、糖尿病内科をはじめ、泌尿器科、呼吸器内科、循環器内科、麻酔科の各先生方には常日頃お世話になっております。特に糖尿病患者は多く、盛満先生には大変感謝しております。これからも御協力の程宜しくお願い致します。

気管食道・耳鼻いんこう科

気管食道・耳鼻いんこう科部長 昇 卓夫

【平成 20 年度手術件数】

a) 耳科領域	50 件	
1. 先天性耳瘻管摘出術		12 件
2. 鼓膜チューブ留置術 (全麻)		7 件
3. 鼓膜形成術		9 件
4. 鼓室形成術		12 件
5. 顔面神経減荷術		2 件
6. 人工内耳埋込術		2 件
7. その他		6 件
b) 鼻科領域	99 件	
1. 鼻中隔矯正術、下鼻甲介切除術		23 件
2. 鼻外副鼻腔手術		4 件
3. 鼻内副鼻腔手術 (内視鏡下)		37 件
4. 鼻・副鼻腔腫瘍手術		7 件
5. 鼻骨骨折整復術		5 件
6. 副鼻腔嚢胞手術		12 件
7. その他		11 件
c) 口腔・上中咽頭領域	116 件	
1. 口蓋扁桃手術		90 件
2. アデノイド切除術		12 件
3. 舌腫瘍手術		5 件
4. その他		9 件
d) 喉頭・気管・下咽頭・食道領域	60 件	
1. 気管切開術		20 件
2. 内視鏡下手術		
i) 声帯ポリープ・結節切除術		27 件
ii) 喉頭腫瘍		10 件
3. 喉頭腫瘍切除・全摘術		1 件
4. その他		2 件
e) 顔面・頸部領域	35 件	
1. 唾石 (含顎下腺) 摘出術		5 件
2. がま腫手術		1 件
3. 唾液腺腫瘍手術		11 件
4. 頸瘻・頸嚢摘出術		3 件
5. 甲状腺腫瘍手術		1 件
6. 頸部郭清術		2 件
7. その他		12 件

平成 20 年度頭頸部悪性腫瘍症例

a) 鼻副鼻腔	1 例
b) 下咽頭	1 例
c) 喉頭	5 例
d) 唾液腺	1 例
e) 甲状腺	2 例
f) 原発不明・その他	1 例

平成 20 年度の手術のべ件数は 360 件、新規の悪性腫瘍症例（治療症例）は 11 例でした。

【学会活動】

【主催学会】

第 26 回鹿児島集談会 平成 20 年 9 月 6 日 ホテル京セラ

【学会発表】

耳周囲の粉瘤 3 症例

第 26 回鹿児島集談会 平成 20 年 9 月 6 日

今村洋子

不明熱 2 症例とリンパ腫の 1 例

第 26 回鹿児島集談会 平成 20 年 9 月 6 日

河野もと子

皮膚科

皮膚科部長 児浦 純生

【診療内容・特色】

診療内容は、興味、関心、専門で力点をかえず、かたよることなく、皮膚疾患全般にもれなく対応することをモットーに診療している。

【人事・スタッフ紹介】

常勤は私一人。鹿児島大学からの非常勤の先生に限られた曜日の外来を担当してもらっている。交替でみえるので個人個人の紹介は省く。

私（児浦）個人の医師経歴、資格などを略記します。

皮膚科部長 児浦 純生

（経歴）

昭和 47 年 4 月 鹿児島大学助教授

同 35 年 4 月 鹿児島大学市立病院皮膚科部長

平成 11 年 4 月 鹿児島大学皮膚科臨床教授（現在に至る）

同 14 年 4 月 今給黎総合病院皮膚科部長

（資格）

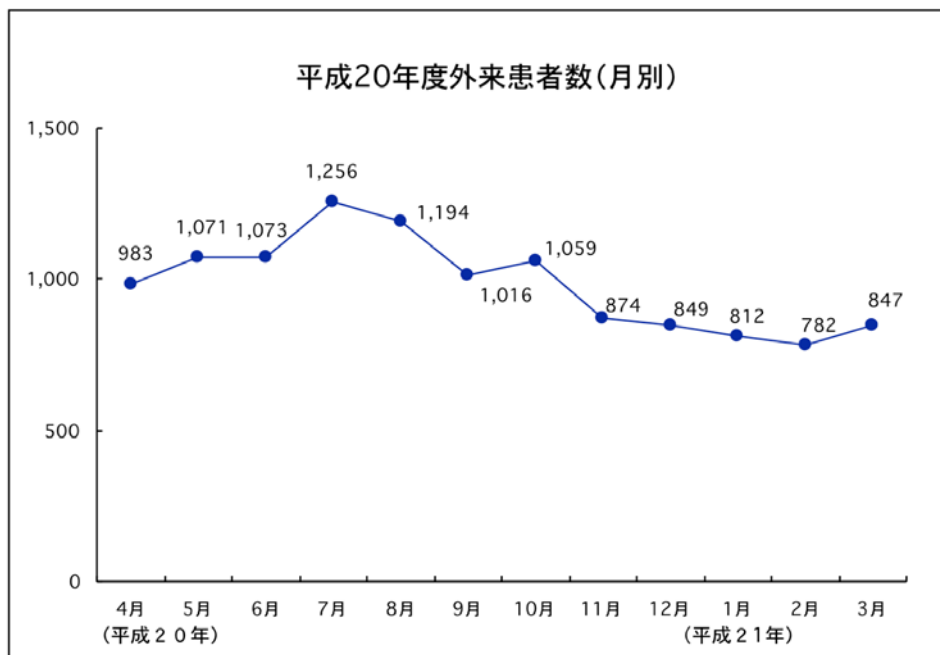
医師免許証

皮膚科専門認定医

日本医師会認定産業医

【外来、入院状況】

	外来	新入院	延入院
平成 20 年 4 月	983	6	45
5 月	1,071	4	55
6 月	1,073	3	42
7 月	1,256	8	47
8 月	1,194	5	47
9 月	1,016	7	88
10 月	1,059	5	45
11 月	874	2	20
12 月	849	4	40
平成 21 年 1 月	812	4	34
2 月	782	9	65
3 月	847	5	56
合計	11,816	62 名	584 日



	初 診	再 診	合 計	紹介患者数
平成18年度	3,011	8,658	11,669	189
平成19年度	3,063	8,464	11,527	186
平成20年度	2,949	8,867	11,816	166

その他：国立病院機構 鹿児島医療センターへの往診 平成20年 8件

【学会発表】

マダニ刺咬症と慢性遊走性紅斑（ライム病）

第150回日本皮膚科学会鹿児島地方会 鹿児島大学院医歯学総合研究科 鶴陵会館 平成20年4月27日
児浦純生（今給黎総合病院）

【院外活動（Ⅰ）】

メディカルトリビューン、特別企画（座談会）

「エキスパートが語る痒み治療前線」

鹿児島大学皮膚科学教室教授 金蔵拓郎

東京慈恵会医科大学皮膚科学講座教授 中川 秀己

財団法人昭和会 昭和会クリニック皮膚科部長 児浦 純生
他2名

（2008年10月2日行われる）

【院外活動（Ⅱ）】

鹿児島大学医学部皮膚科学教室同門会会長

鹿児島県熊本大学医学部同門会会長

鹿児島県STD研究会運営委員

麻酔科

麻酔科部長 池田 耕自

当院における麻酔科の診療内容は手術麻酔、集中治療室等における重症患者管理である。

今年度における麻酔科の陣容は、4人の麻酔科常勤医と他科からの研修医1人、非常勤医1人の7人であった。さらに卒後研修医6人の研修を行った。

平成20年度の今給黎総合病院麻酔科管理症例数は2479件であった。この内、緊急手術は212件であり全体の8.6%程度を占める。手術室は6室有り、最大で7件の同時並行手術が可能である。

各科別の手術件数は、整形外科703件(28%)、耳鼻咽喉科346件(14%)、外科299件(12%)、泌尿器科315件(13%)、産科婦人科200件(8%)、形成外科213件(9%)、呼吸器外科197件(8%)、歯科口腔外科133件(5%)、脳神経外科20件(1%)、眼科53件(2%)、といった現状であった。

【麻酔症例内訳】

総症例数(緊急)	2479 (212)
全身麻酔	1372
全麻+硬麻等	426
脊麻・硬麻等	619
伝達麻酔	22
その他	40

【各科別麻酔依頼件数(緊急)】

科名	件数
整形外科	703 (47)
耳鼻咽喉科	346 (7)
外科	299 (79)
泌尿器科	315 (8)
産科婦人科	200 (54)
形成外科	213 (11)
呼吸器外科	197 (2)
歯科口腔外科	133 (0)
眼科	53 (3)
脳神経外科	20 (1)

【ICU】

平成20年度のICU入室件数は581件である。各科の内訳は以下の通りである。

【各科別ICU入室者数】

科名	入室者数
外科	158
呼吸器外科	139
泌尿器科	89
脳神経外科	48
整形外科	30
呼吸器内科	38
神経内科	12
麻酔科	14
循環器内科	23
産婦人科	18
総合内科	3
耳鼻咽喉科	1
形成外科	7
消化器内科	1
合計	581

麻酔科管理患者は14名で内訳は急性薬物中毒1名、重症外傷3名、重症急性膵炎1名、心肺蘇生後7名、肺炎2名であった。

【医師紹介】

麻酔科医名

池田 耕自 (平成 12 年 4 月～)

西山 淳 (平成 17 年 10 月～)

川口 泰史 (平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月)

岡山 奈穂子 (平成 18 年 7 月～)

岩川 昌平 (平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月)

今村 勝行 (平成 20 年 3 月～9 月)

鶴 亜里紗 (平成 20 年 10 月～平成 21 年 3 月)

脇田 和博 (平成 20 年 4 月～5 月)

中山 龍次郎 (平成 20 年 5 月～9 月)

鮫島 洋一 (平成 20 年 7 月～8 月)

下倉 眞平 (平成 20 年 10 月～平成 21 年 1 月)

瀬戸山 傑 (平成 21 年 2 月～3 月)

松浦 茜 (平成 21 年 2 月～)

放射線診断科・放射線治療科

放射線診断科部長 井手上 淳一

放射線治療科部長 中禮 久彦

当院では最新の機器（CT64列 1機、6列 2機・MRI 1.5T 1機、1.0T 1機・RI・DSA 1機・透視 2機・乳房X線装置 1機・マンモトーム 1機など）を備え、平成20年度6月より当院でPACSの更新とフィルムレスとなり、さらに効率的に最良な画像で適切な画像診断を行っております。これらの医療機器を広く公開利用し、質の高い地域医療へ貢献しています。また、当院では診療の質向上のために多くの合同カンファレンスを行っております。整形・呼吸器・消化器・循環器・脳神経系カンファレンスなどが日常診療の合間に行われております。

治療目的として肝癌や腎癌への動注塞栓術をはじめ、膀胱腫瘍や頭頸部癌への動注療法や救急疾患の中で外傷等による臓器損傷・肺炎や喀血などに対して血管内治療を積極的に取り組んでいます。今年度は昨年と同じく4人の常勤（大久保 幸一昭和会クリニック院長・中禮 久彦・井手上 淳一・立山 暁大（今年度9月より伊藤 宗一郎と交代となりました。）と鹿児島大学より2人の非常勤で日常診療を精力的に行っております。

【検査件数】

	件数
1. 一般撮影	45,426
2. 透視・造影撮影	899
3. 骨塩定量測定	391
4. X線CT	13,226
5. DSA/Angio	95
6. RI	902
7. MRI	5,848
8. 放射線治療	5,917
9. 前立腺シード	46

【入院診療患者】

【主病名別患者数】

食道癌	16
胃癌	2
直腸癌	1
肝癌	12
胆嚢癌	1
気管癌	1
肺癌	32
悪性胸膜中皮腫	1
乳癌	2
子宮癌	2
前立腺癌	2
悪性胸壁腫瘍	1
頸部リンパ節転移	3
腹腔内リンパ節転移	1
多発リンパ節転移	1
転移性肺腫瘍	4
転移性縦隔腫瘍	2
転移性腹膜腫瘍	1
転移性脳腫瘍	5
転移性骨腫瘍	18
転移性胸壁腫瘍	1
マントル細胞リンパ腫	1
急性混合型白血病	1
浸潤性縦隔種	1
多発限局性脳内出血	1
総肝動脈瘤	1
腎動静脈瘻	1
パージャヤー病	2
細菌性肺炎	1
関節リウマチ	1
肩胸鎖関節炎	1
肺動脈起始異常症	1
血尿	1
その他	1
合計	123

【悪性新生物原発巣別患者数】

肺癌	43
肝癌	20
食道癌	18
胃癌	5
胆嚢癌	4
乳癌	4
直腸癌	3
前立腺癌	3
舌癌	2
結腸癌	2
子宮癌	2
気管癌	1
悪性胸膜中皮腫	1
悪性胸壁腫瘍	1
マントル細胞リンパ腫	1
急性混合型白血病	1
浸潤性縦隔種	1
合計	112

【学会活動】

【学会発表】

当院で経験した隆起性皮膚線維肉腫 4 例の MRI 検査所見の検討
第 168 回日本医学放射線学会九州地方会 佐賀 2009 年 2 月 14 日
立山 暁大ほか

【論文・著書】

急性腹症で発症した消化管（回腸）重複症の 1 例
鹿児島市医報 第 48 巻 第 5 号 平成 21 年 5 月
立山 暁大ほか

救急科（連携診療科）

連携診療科部長 松添 大助

平成 20 年度の救急車搬送件数は 2062 件でした（表 1）。上町救急隊が新たに編成され、上町、吉野地区における救急拠点病院としての役割が明確になってきたように思います。

時間帯でみると（表 2）、日勤帯 1125 件（54.6%）、準夜帯 566 件（27.4%）、深夜帯 371 件（18%）でした。夜間の救急搬送件数は単純に計算しても一日平均 2.6 件です。当直業務ご苦労様です。

年齢別では（表 3）、やはり高齢者が多かったようです。

CPA は 25 件でした（表 4、5）。時間帯でのかたよりはありませんでした。月別にみると、心、脳血管系疾患の影響か、冬場に多くありました。

表 1 地区別集計

鹿児島	1656
（上町・吉野	713）
（伊敷・草牟田	313）
（中央	196）
（中央駅・田上	99）
（鴨池・郡元	89）
（谷山	65）
（桜島	47）
（吉田	72）
（喜入	1）
（松元	12）
（郡山	49）
始良	165
日置	83
川薩	61
川辺	20
指宿	20
出水	1
肝属	21
曾於	7
伊佐	8
熊毛	8
県外	12
計	2062

表 2 時間帯別集計

勤務帯	人数(人)
日勤（8：00-17：00）	1125
準夜（17：00-23：00）	566
深夜（23：00-翌8：00）	371

表 3 年齢別集計

年齢	(人)
0	84
1-15	63
16-19	74
20-39	364
40-59	356
60-79	635
80-	486

表 4 CPA 症例 月別集計

月	(人)
4	1
5	0
6	3
7	2
8	0
9	1
10	0
11	2
12	5
1	7
2	4
3	0
計	25

表 5 CPA 症例 時間帯別集計

勤務帯	人数(人)
日勤（8：00-17：00）	8
準夜（17：00-23：00）	9
深夜（23：00-翌8：00）	8

病理診断科

病理診断科部長 田代 幸恵

【スタッフ紹介】

医師

白濱 浩（日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、臨床検査管理医）

田代 幸恵（日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医）

佐藤 栄一（鹿児島大学医学部名誉教授、日本病理学会病理専門医）

技師

徳永 敬之（臨床病理技術士）

肥後 真（臨床検査技師、国際細胞検査士）

新村 泰子（臨床検査技師）

高橋 奈見（臨床検査技師、国際細胞検査士）

岩崎 明日香（臨床検査技師）

【組織診および細胞診検体数】

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
組織件数	3,791	4,110	3,791	4,736
細胞診件数	3,300	3,174	3,315	3,011

【細胞診診断統計】（2008年4月1日～2009年3月31日）

	IIIa		IIIb		Not diagnostic		合計		
	Class I	Class II	Class III	Class IV	Class V				
膣頸部	1094	171	58	9	4	7	15	0	1358
内膜	91	42	0	0	1	1	6	0	141
呼吸器	370	95	0	0	30	28	104	0	627
体腔液	98	62	0	0	18	2	58	0	238
尿	140	137	0	0	32	15	49	0	373
その他	91	63	0	0	34	11	36	38	273
合計	1884	570	58	9	119	64	268	38	3010

【組織診断統計】 (2008年4月1日～2009年3月31日)

	生検		内視鏡切除		切除		合計
	悪性		悪性		悪性		
心 血 管	0	0	0	0	2	0	2
血液・骨髄・脾	30	10	18	8	9	1	57
リンパ節	18	10	27	22	272	101	317
鼻・咽頭・喉頭	53	17	42	2	23	3	118
肺	179	76	2	1	126	80	307
胸膜・縦隔・腹膜	18	12	4	2	43	15	65
口腔・唾液腺	13	5	5	0	77	6	95
食 道	82	20	2	0	7	4	91
胃・十二指腸	1091	71	25	7	51	33	1167
小 腸	26	2	1	0	27	5	54
大腸・肛門	322	63	677	46	131	42	1130
肝 胆 膵	11	2	0	0	81	18	92
腎 尿 路 男 性	152	86	138	72	157	78	447
女 性 器	68	15	35	4	235	50	338
乳 線	5	5	2	0	9	7	16
内 分 泌	3	1	2	0	20	5	25
中枢末梢神経	0	0	0	0	9	4	9
耳 ・ 眼	4	1	1	0	9	2	14
皮 膚	127	31	2	0	914	102	1043
骨 ・ 関 節	34	8	1	1	28	1	63
軟 部	5	1	1	0	120	11	126
そ の 他	4	1	43	1	16	0	63
合 計	2245	437	1028	166	2366	568	5639

【剖検例】

剖検番号	年齢・性	出 所	主要剖検診断
QA-2008-1	67M	総合内科	顕微鏡的多発血管炎
QA-2008-2	68F	総合内科	成人T細胞白血病
QA-2008-3	66F	呼吸器内科	間質性肺炎
QA-2008-4	78F	泌尿器科	急性腹膜炎, S状結腸憩室炎

- ・ 術中迅速診断：292件（内、院外からの依頼：56件）
（H17年度：229件、H18年度：306件、H19年度：319件）
- ・ 院外からの血液疾患関連Marker検索および診断依頼：22件
（H17年度：30件、H19年度：33件、H20年度：30件）

- ・院外からの免疫染色依頼（パラフィン切片による）：1007件
(H17年度：701件、H18年度：781件、H19年度：924件)

【学会活動】

【学会発表】

骨病変

第107回鹿児島病理集団会 鹿児島 H20.6.10

白濱浩（今給黎総合病院 病理）

【論文】

An atypical extrahepatic metastasis of the distal phalanx from hepatocellular carcinoma.
Int J Clin Oncol. 2009 Apr;14(2):159-62. Epub 2009 Apr 24.

Otsuji M, Matsunaga S, Koga H, Kawabata N, Imakiire T, Hiwaki T, Tashiro Y, Shirahama H, Komiya S.

Effect of clinicopathologic factors on visibility of colorectal polyps with FDG PET.

AJR Am J Roentgenol. 2009 Mar;192(3):754-60.

Nakajo M, Jinnouchi S, Tashiro Y, Shirahama H, Sato E, Koriyama C, Nakajo M.

CD8 positive T-cell infiltration in the dentate nucleus of paraneoplastic cerebellar degeneration.

J Neuroimmunol. 2009 Mar 31;208(1-2):136-40. Epub 2009 Feb 13.

Aye MM, Kasai T, Tashiro Y, Xing HQ, Shirahama H, Mitsuda M, Suetsugu T, Tanaka K, Osame M, Izumo S.

Uncommon cases of immature-type CD56+ natural killer (NK)-cell neoplasms, characterized by expression of myeloid antigen of blastic NK-cell lymphoma.

Int J Hematol. 2009 Mar;89(2):188-94. Epub 2008 Dec 25.

Owatari S, Otsuka M, Takeshita T, Mizukami K, Suzuki S, Uozumi K, Tashiro Y, Arima N, Hanada S.

Continued complete remission without systemic therapy for isolated testicular relapse after bone marrow transplantation in a boy with acute lymphoblastic leukemia.

Pediatric Transplantation 2008 Nov 26.

Kodama Y, Okamoto Y, Ijichi O, Shinkoda Y, Nishikawa T, Tanabe T, Yoshioka T, Tashiro Y, Mougii H, Kawano Y.

Alpha-fetoprotein (AFP)-producing adrenocortical carcinoma--long survival with various therapeutic strategies including a lung resection: report of a case.

Surg Today. 2008;38(3):275-8. Epub 2008 Feb 29.

Hamanaka W, Yoneda S, Shirakusa T, Shirahama H, Tashiro Y, Iwasaki A, Shiraishi T, Tsuru H.

Graft-versus-adult T-cell leukemia/lymphoma effect following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.

Bone Marrow Transplant. 2008 Jun;41(12):1029-35. Epub 2008 Mar 10.

Yonekura K, Utsunomiya A, Takatsuka Y, Takeuchi S, Tashiro Y, Kanzaki T, Kanekura T.

在宅診療科

在宅診療科部長 林 茂昭

【診療科紹介】

平成 21 年 5 月現在、在宅診療科は常勤医 2 名体制となっております。自宅療養されておられ、通院困難な方に訪問診察を行っております。常勤医 2 名が中心となり、他科の先生方、在宅医療部の保健師・看護師にご協力を頂きながら診療を行っております。

【医師紹介】

林 茂昭 日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医
甲斐 太 日本内科学会認定内科医、日本神経学会専門医

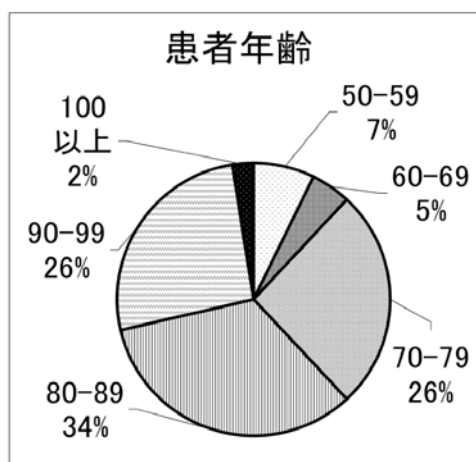
【診療状況】

現在は約 30 名の患者様の訪問診察を行っております。
全身状態が悪化した場合は、病院に入院して頂き治療を行い、自宅療養が再度できるように対応しております。

患者総数 42 名（男性 17 名 女性 25 名）

【患者年齢】

年代	人数（人）
40-49	0
50-59	3
60-69	2
70-79	11
80-89	14
90-99	11
100 以上	1
合計	42



【月別訪問件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（件）
訪問診察	34	37	42	48	47	42	36	39	39	41	40	45	490
訪問 リハビリ	17	23	12	12	14	12	6	8	13	11	9	14	151
訪問看護	60	88	100	122	122	102	94	83	88	69	74	86	1088
合計（件）	111	148	154	182	183	156	136	130	140	121	123	145	1729

【主疾患名】

疾患名	人数（人）	疾患名	人数（人）
脳・神経疾患	22	消化器疾患	1
骨・関節疾患	9	内分泌・代謝疾患	0
癌	5	その他	0
循環器疾患	4	合計	42
呼吸器疾患	1		

歯科、歯科口腔外科

歯科口腔外科部長 吉田 雅司

【診療内容、特色】

歯科口腔外科外来では、歯科医師2名、歯科衛生士1名、歯科技工士1名、および受付1名の常勤スタッフで、当院の入院患者やスタッフ、さらにご紹介いただいた患者様を診療しています。

診療内容は、う歯、根管治療、義歯やブリッジなどの補綴治療などの一般歯科治療、また、埋伏智歯抜歯を中心とした抜歯、歯の破折や歯槽骨骨折などの外傷治療、歯根のう胞や粘液のう胞などの摘出術、顎関節症、歯科インプラント治療などが中心です。さらに、次のような専門外来を行っており、患者様の多様なニーズにお答えしております。

- ・ 歯周病科外来：主に口腔ケアを行います。
- ・ 補綴科外来：腫瘍切除後の顎補綴や顎関節症における咬合チェックなどを行います。
- ・ 口腔ペインクリニック：顎顔面領域の神経痛や麻痺、痺れといった神経症状の治療を行います。

これまで神経障害が発症した時、確実に合併症のない非侵襲的治療法はなかったが、国内外で初めて低周波・高周波混合治療器を臨床的に用いた方法を行っている。この治療法は、1か月以内の亜急性期から1年以上経過した慢性期の感覚障害でも神経機能改善効果がほぼ1か月後から得られる画期的治療法である。この治療法で肝要なことは、障害された神経の走行を熟知して、その走行から障害部位を包囲するイメージで、しかも最小閾値の電圧で神経刺激していくことである。しかし、神経障害のパターンは多種多様であり、加療開始後5回で効果が発現しない場合は、刺激電極の部位が適切でない場合が多く、その刺激部位を変更していくことが大切である。

Key-words: 感覚障害、電氣的神経刺激法、三叉神経、オトガイ神経、顔面神経

- ・ 漢方歯科外来：口腔粘膜疾患の診断・治療を行います。
- ・ お口のカウンセリング外来：様々なストレスに起因する口腔疾患における患者様のお話をお聞きして、適切なアドバイスを行います。
- ・ スポーツ歯科外来：スポーツ選手に対してマウスガードの作成や咬み合わせのチェックを行います。

一方、入院では、外科的矯正術を中心に、有病者の抜歯や歯科治療、およびさまざまな口腔外科的疾患の手術や治療に対応しております。

本院は、他科との連携が非常にスムーズで、有病者の患者様はもちろんのこと、常に安心できる歯科医療を提供できる環境が整っております。また、看護師やその他のスタッフの方々の献身的な支えがあって、充実した診療が行えていると思います。さらに、努力し、今給黎総合病院・昭和会クリニックから情報発信が出来るよう、頑張っていきたいと思います。

【平成20年度 統計】

外来患者数

6606人(新患1011人)

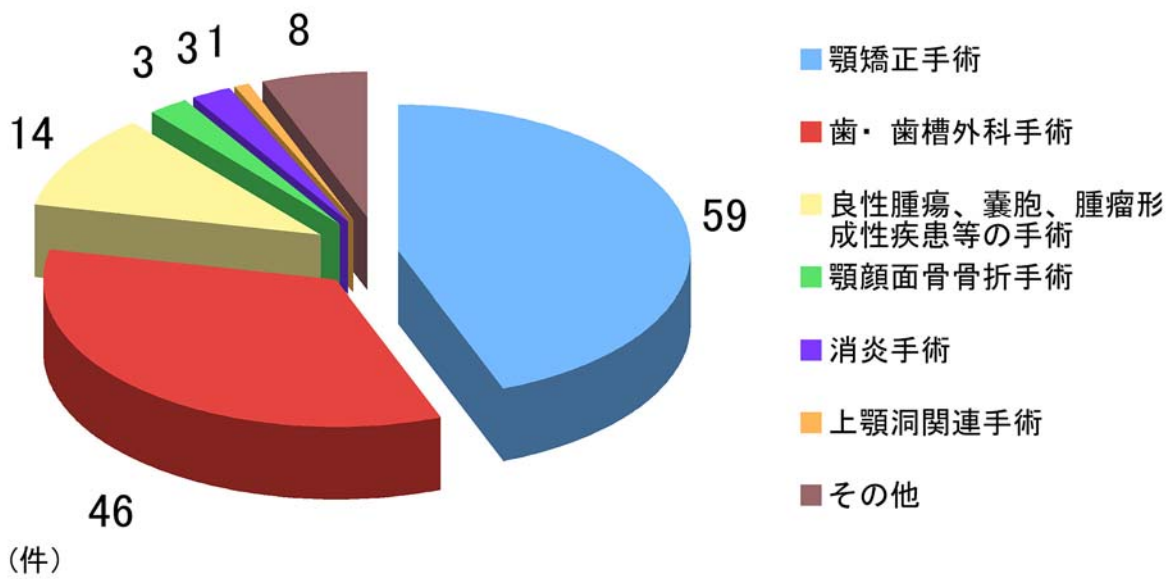
入院患者数

152人

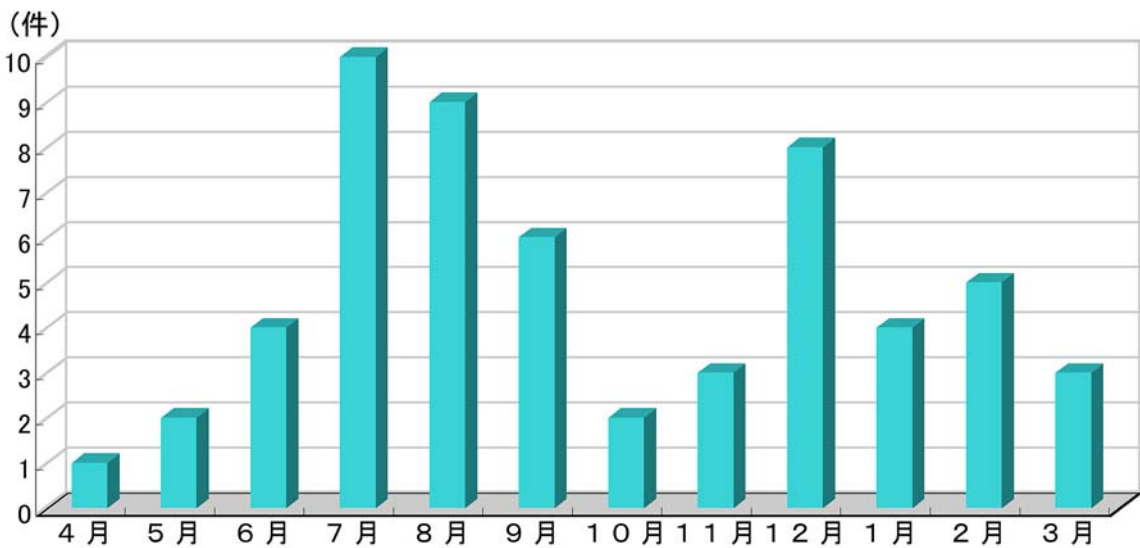
【平成20年度 手術症例（全身麻酔）】

134件（平成20年4月～平成21年3月）

	顎矯正手術	歯・歯槽外科手術	良性腫瘍、嚢胞、腫瘤形成疾患等の手術	顎顔面骨骨折手術	消炎手術	上顎洞関連手術	その他
手術件数	59	46	14	3	3	1	8



【平成20年度 月別外科的矯正手術】



【講演・学会活動など】

【論文】

低周波・高周波混合治療器を用いた口腔顎顔面領域の神経障害に対する電氣的神経刺激療法の臨床応用—急性期および慢性期の神経障害への効果—

J JIADS CLUB 15(1): P1-16 2008

横山幸三、吉田雅司

【著書】

実践スポーツデンティスト—スポーツ歯科最前線での戦い—

第3章種目別マウスガード製作とデンタルサポート

マウスガード&デンタルサポート研究会（竹内正敏）編 P58-61 末永書店 京都 2008

吉田雅司

【その他の執筆】

南日本新聞夕刊連載「思うこと」

9月8日「ウィリアム・ウィルス」、9月22日「スポーツ歯科」、9月29日「白いマウスガード」、10月6日「スポーツ選手の顔」、10月20日「篤姫とかごしま弁」、10月27日「映画/北辰斜めにさすところ」、11月10日「for others」

吉田雅司

【学会発表】

スポーツ歯科医の国際援助活動から見たもの

第56回日本輸血・細胞治療学会総会報告 福岡 2008年4月25～27日

吉田雅司

骨延長術を応用して上顎骨急速側方拡大を行った1症例

第18回日本顎変形症学会総会 名古屋 2008年6月17～18日

吉田雅司、黒江和斗¹、吉田礼子²

¹) 矯正歯科くろえクリニック、²) 鹿児島大学病院歯科総合診療部

電子カルテオーダーリングシステムにおける自己血採血

第14回鹿児島自己血輸血療法研究会 鹿児島市 2008年7月19日

有馬百合子、田川愛子、今堀貴之、吉田雅司

唾液アミラーゼ活性とスポーツストレス

第19回日本スポーツ歯科医学会総会・学術大会 北海道 2008年7月12～13日

吉田雅司、吉田礼子¹

¹) 鹿児島大学病院歯科総合診療部

ダイレクトボンドチタニウム拡大装置に頬側の corticotomy を併用した上顎歯槽部骨延長

第67回日本矯正歯科学会 千葉市 2008年9月16～18日

黒江和斗¹⁾、吉田雅司、後藤光利²⁾

¹⁾ 矯正歯科くろえクリニック、²⁾ 株式会社アバンテック

車椅子バスケットボールにおけるマウスガードの効果

日本障害者歯科学会総会および学術大会 東京 2008年10月10～11日

吉田雅司、赤田典子

仰臥位安静時における顔面温度に対する飲水の効果

第22回日本自己血輸血学会学術総会 福島 2009年3月6日～7日

吉田雅司、山口孝二郎¹⁾

¹⁾ 鹿児島大学病院口腔外科

経口補水液中のNaとGlucose比が水・電解質吸収に及ぼす影響

第22回日本自己血輸血学会学術総会 福島 2009年3月6日～7日

近藤康得¹⁾、吉田雅司、高橋孝喜²⁾

¹⁾ 株式会社 大塚製薬工場 メディカルフーズ事業部、²⁾ 東京大学医学部附属病院 輸血部

学会認定・自己血輸血看護師受験に向けてー鹿児島自己血輸血療法研究会の取り組みー

第22回日本自己血輸血学会学術総会 福島 2009年3月6日～7日

北 和代¹⁾、友清 尚子²⁾、内菌 真矢²⁾、吉田 雅司

¹⁾ 今林整形外科病院看護部、²⁾ 医療法人緑泉会整形外科米盛病院看護部

【講演、その他】

- 1) 吉田雅司：ターナー症候群における口腔症状、第12回未来(MIRAI)の会(2008年4月13日、鹿児島市)
- 2) 吉田雅司：私の国際貢献～ミャンマー医療活動～、鹿児島西ロータリークラブ(2008年4月23日、鹿児島市)
- 3) 川島清美¹⁾、吉田雅司(¹⁾鹿児島大学病院口腔外科)：ミャンマー医療援助隊活動報告、国分ロータリークラブ(2008年5月8日、国分市)
- 4) 吉田雅司：鹿児島大学講義 鹿児島探訪ー国際貢献ー「医療国際ボランティア活動～君はウィリアム・ウィリスになれるか～」(2008年5月9日、鹿児島市)
- 5) 吉田雅司：スポーツ歯科医の国際援助活動、薩英サロン(2008年5月13日、鹿児島市)
- 6) 吉田雅司：今給黎総合病院における外科的矯正術、鹿児島矯正研究会(2008年7月4日、鹿児島市)
- 7) 吉田雅司：私の国際貢献～ミャンマー医療活動～、鹿児島ロータリークラブ(2008年9月5日、鹿児島市)
- 8) 吉田雅司：自己血輸血からの展開、鹿児島臨床検査技師会(2008年9月6日、鹿児島市)
- 9) 吉田雅司：スポーツ歯科の現状と展望、鹿児島県保険医協会 第78回医科研究会(2008年10月15日、鹿児島市)
- 10) 吉田雅司：スポーツ歯科医の国際援助活動、鹿児島サザンウィンドロータリークラブ(2008年11月5日、鹿児島市)

- 11) 吉田雅司：スポーツ歯科と学校保健～われわれが子供たちに出来ること～、鹿児島県養護教諭研究会（2008年2月25日、鹿児島市）
- 12) 吉田雅司：日常臨床に必要な口腔外科の知識、鹿児島県保険医協会 第79回医科研究会（2009年2月10日、鹿児島市）

【ラジオ出演】

- 1) 吉田雅司：MBC ラジオ「MBC Sports パラダイス/Dunk! Dunk! レノヴァ」(2008年12月28日)
<http://blog.mbc.co.jp/spopara/2008/12/index.html#entry-29531190>
- 2) 吉田雅司：MBC ラジオ「豊平有香のhouzan's cosmos」(2008年11月23・30日)
<http://www.mbc.co.jp/radio/houzan/index2008.html>

【研究会開催状況】

- 第15回鹿児島自己血輸血療法研究会：平成20年7月19日、今給黎総合病院講義室
 第4回鹿児島スポーツ医学歯学勉強会：平成21年2月28日、今給黎総合病院講義室

【院外活動（ボランティアなど）】

2008年度ミャンマー医療隊：平成20年12月16～23日、ヤンゴン市（ミャンマー連邦）
 <吉田雅司 参加>

【スタッフ紹介（平成21年6月）】



吉田雅司（歯科医師）
 今給黎総合病院常勤
 専門分野：歯科口腔外科



鎌田ユミ子（歯科医師）
 昭和会クリニック常勤
 専門分野：一般歯科



塘亜佳音
 （歯科技工士）



永野恵理
 （歯科衛生士）



西山麻美
 （歯科衛生士）